



YICA 20th Anniversary 1998-2018

20



YICA Chronicle

YICA 20th Anniversary 1998-2018

- 2 - 目次
- 3 - ごあいさつ
- 5 - YICA設立までの経緯について
- 6 - YICA前史 1994～1997
- 8 - アラン・ジョンストン インタビュー
- 12 - マード・マクドナルド インタビュー
- 20 - 1998年度 - YICA設立総会
- 22 - 1999年度 - NPO法人化 / 菜香亭での月例会
- 24 - 2000年度 - GAW展 パートII 参加 / ワークショップ“きもちをつたえよう!”
- 26 - 2001年度 - アート・イン・ザ・ホーム / ワークショップ“五感を超えて旅に出ようよ。”
- 28 - 2002年度 - Beautiful Artist / ワークショップ“おすましーの坂川”
- 30 - 2003年度 - ワークショップ“ひかるくうきゆるる” / エジンバラ・山口2004に向けて
- 32 - 2004年度 - エジンバラ・山口2004
- 34 - 2005年度 - 多彩なゲスト・アーティスト / 蔚山×山口日韓交流現代美術展への参加
- 36 - 2006年度 - 今後の方向性をめぐる議論
- 38 - 2007年度 - フューチャー・アカデミー / 広報出版部会
- 40 - 2008年度 - つなぐ'08—ウォン・ハ / 有佐祐樹 / 守章
- 42 - 2009年度 - 山口盆地午前五時
- 44 - 2010年度 - YICA+AIS「日本におけるコンセプチュアルアートの展開」 / 3.11東日本大震災
- 46 - 2011年度 - 山口盆地考^{うらう}— 閨—
- 48 - 2012年度 - 環境レクチャーシリーズ
- 50 - 2013年度 - YCAM10周年との連携
- 52 - 2014年度 - 地域資源をアートへ
- 54 - 2015年度 - リフレクションズ
- 56 - 2016年度 - 山口アート・アーカイヴ[YAA]
- 58 - 2017年度 - 山口盆地考2018.....吹き来る風が.....
- 60 - 2018年度 - 20周年記念冊子刊行
- 62 - 《木町ハウスの鍵》 宮本博史
- 64 - 「新聞記事等切り抜き」より 1994.9.14～1998.9.27
- 68 - 奥付

山口現代芸術研究所、通称YICA(イッカ)の設立20周年を記念して、これまでの活動を紹介する冊子を刊行します。

20周年という節目は、私たちの世代の日本人で言えば、ちょうど成人式を迎える年齢です。もちろん、YICAのようなNPO法人と人間とでは、誕生時に備えている活動能力の幅も、その後の“成長”の過程も異なりますが、それでも、振り返ってみると「意外とあっという間だった」という感慨自体は、思いを馳せる主体が同じ人間なのですから、やはり共通するものです。まして、メンバーの多くがいわゆる青年期を過ぎてから参加するのですから、青年から中年、そして老年までの人生の時間の経ち方の速いこと、「光陰矢の如し」といった感覚はひとしおです。そうした中、YICAのアート・ワークショップに参加してくれた小さな子どもたちが、今や立派な成年になっている様子を見聞きする際には、目を細めたくなる幸福感に包まれます。

YICAは、設立以来、現代アートの普及と地域の活性化を中心に、国際的なネットワークの構築、山口の豊かな自然環境との共生、そして若い世代の育成と支援を柱として、この20年間、さまざまな活動を展開してきました。私がYICAに関わるようになったのは、2002年春からで、2004年の「エジンバラ・山口2004」実行委員会事務局を担当し、2016年5月から会長に就任しました。初代の奥津聖会長、2代目の白川美幸会長を継いで、3代目です。私自身のYICAとの17年間の関わりを振り返ってみても、深く関わった時期と、大学の仕事に追われてあまり関われなかった時期とがあります。この冊子の準備を通して明らかになったことの1つは、YICAの20年間の活動のすべてに関わり続けることが出来た人は1人もいないということです。そこがYICAの20年と1人の人間の20年との大きな違いです。特定非営利活動法人、Nonprofit Organizationは、事業に対して助成や後援を得る以外は、会費と寄付金で運営されています。つまり自由意志、ボランティア—私たち自身が、時間をやり繰りし、互いに助け合っ、自らやりたいこと、実現したいことに時間と資金とエネルギーとを注いできた20年間なのです。

この冊子の年度ごとの活動を紹介するページには、その年度の活動に深く関わった会員による短いエッセイが添えられています。編集上の都合で随分短くつづめた形になってしまいましたが、個人の視点で振り返ったYICAの活動に対する“思い”を皆で共有することを目指しました。“私”の思いや感情を“あなた”に語り、そして、私やあなた以外の“さまざまな人”へと届ける。YICAのアーカイヴ事業の準備段階から、アドバイザーとして関わってくれた大阪在住のアーティスト、宮本博史さんの考えです。本冊子の刊行にあたり、ほかにも、さまざまな関係者の皆さまから温かいご支援とご協力を頂戴いたしました。この場を借りて心から御礼申し上げます。

私たちに実現できることは、ほんのわずかでしかありませんが、こうした小さな1歩を着実に積み重ねて、次の25周年、30周年の節目へと歩みを進めて参ります。

YICA会長 藤川 哲



木町ハウス / KIMACHI HOUSE

YICA設立までの経緯について

NPO法人YICA設立20周年を心から慶賀いたします。設立メンバーの一員として、設立に至る経緯の若干を記録として残しておきたいと思っております。YICAは平成10年5月23日に設立され、平成11年9月10日にNPOとして認定されました。そこに至る契機には2つの大きな流れがありました。1つは滞在アーティストを中心とする展覧会、講演会、ワークショップ等からなる複合的イベントの開催であり、いま1つは定期的な研究会、読書会の積み重ねでした。

1984年に現代美術専門の「ギャラリー・シマダ・ヤマグチ」が開設されたことで多くのアーティストが滞在制作のために山口を訪れることとなり、現代芸術研究の機運が高まりました。1985年には、山口大学の学生会館で「第1回現代芸術を語る夕べ」が開かれゲストのアブラハム・ダヴィッド・クリスチャンの紙の彫刻を囲んでシュンポジウムが行われました。大変盛況で高校生がレベルの高い質問を発してわたしたちを驚かせてくれました。九州からの聴衆も多く、それが翌年から北九州市立美術館と山口県立美術館を会場にして1990年まで17回開催された「20世紀美術研究会」の母体となりました。YICA関係者の発表は第2回(1986)高田美規雄「アルテ・ポーヴェラから考えること」、第4回(1987)嶋田日出夫「ケルン現代美術の旅から」、第17回(1990)奥津聖「ダン・グレアムについて—永遠のループ」、の3回で他に山口県立美術館の榎本徹氏の写真論の発表もありました。この間研究会だけではなく九州と山口の交流は相互に行われる展覧会を通して活発なものとなりました。

展覧会の開催を準備する為の読書会もかなり頻繁に行われています。1986年トーマス・シュトゥール展、1990年ダン・グレアム展、1992年ニエーレ・トロニ展、といった美術館、ギャラリー、大学等が協同して行う大規模な展覧会の場合は、1～2年かけて作家についての読書会を開催。

1994年「外山紀久子報告会(グラスゴー会議)/山口～文化・芸術活動の新たなる展開」、その年の12月に「YICA設立準備会」を立ち上げる。その後YICA設立実現に向けて活動も本格化。1995年「エジンバラ～山口'95」、1997-8年「アーティスト・レジデンス山口」(デヴィッド・ハモンズは長期滞在)といった県や市との協同事業を通じてYICA設立の運びとなりました。

現代芸術について全くの門外漢であったわたし自身A.D.クリスチャンとの1985年の最初の出会いはとても刺激的でした。かれは、美学美術史の研究室で一夏をかけて版画の制作をしました。研究室の学生たちも1人も帰郷せずに連日制作の手伝いをしました。図らずもわたしたちは優れたワークショップに参加する機会を得たのです。そのときの楽しい経験がその後の活動の原動力となったと思います。

名誉会長 奥津 聖

【1994年度（1994年4月～1995年3月）】

-YICA設立準備会発足-

1994年9月17日「外山紀久子報告会／山口～文化・芸術活動の新たな展開」が、C・S赤れんがにて開催されました。まず、山口における文化・芸術活動の新たな展開として現代芸術研究機関(ICA)設立の提案が行われ、次にグラスゴーで開催された国際会議に参加した外山さん(当時:山大人文学部講師)から報告が行われました。この提案と報告をうけて山口でのICAの実現による文化・芸術都市山口の可能性についてディスカッションが行われ、これを機にYICA設立準備会の発足となりました。この組織は、山口市に現代芸術研究機関を設立するために、調査研究や準備活動を行うことを目的としました。この調査研究を具体的に行うために組織されたのがYICA実現化研究会です。1994年12月22日に発足以来、「レクチャー・マラソン」と題して海外から美術関係者を招き連続講演会を開催して、私たちの研究課題の整理とともに、一般の方へも「現代芸術研究機関」のあり方など広く知っていただくことを目的としました。また、事前活動としては「エジンバラ～山口'95」の実施を目指して、準備を重ねてゆきました。

(嶋田日出夫)

【1995年度（1995年4月～1996年3月）】

-YICA実現化研究会／エジンバラ～山口'95-

YICA実現化研究会は1996年3月5日の第15回までほぼ1ヶ月に1度のペースで開催され、YICA設立準備会の構成団体である山口現代芸術研究会とクリエイティブ・タウンズ・クラブ(CTC)のメンバーの他にも山口県や山口市の職員そして報道機関の記者等も参加し、活発な議論が行われました。そして1996年3月末には報告書を発行し、序章「YICA設立準備会発足までの10年間の歩み」、第1章「山口市において現代芸術の拠点を創出することの意義」、第2章「YICAの目指すもの」、第3章「組織形成のための課題」、第4章「公的機関との関連／公的な支援体制の確立」、第5章「住民、民間団体との関連」、第6章「YICA実現のための方向性と今後の展開」、資料編で15回にわたる研究会と6回開催の「レクチャー・マラソン」の内容紹介で締めくくっています。「レクチャー・マラソン」は世界各地から講師を招聘し、YICA設立準備会発足から1年半という短い期間の中で調査・研究を行うことができました。また、9月29日から10月1日まで「エジンバラ～山口'95—芸術のまち山口とその環境—」というタイトルで事前事業を開催しました。この事業の特徴として国際的な都市間交流という側面がありますが、様々な団体(山口県デザイン協会や山口商工会議所の「街づくりの森」、また「まちづくり研究集団・創」とのコラボレーションにより、多方面に活動を広げることができたということもあります。

(嶋田日出夫)

【1996年度（1996年4月～1997年3月）】

-街づくりと現代美術-

まちを美術館にみたてた「美術館の森」フェスティバル(当時の仮称)を開催する。事業主体として、(社)山口青年会議所やまちづくりグループなどと共に、市民を中心とした実行委員会を組織する。山口市の歴史文化ゾーンとして捉えられている一の坂川周辺で、歴史文化の継承と同時に、新たな芸術文化の創造をめざす。そのなかでYICA設立準備会は、現代芸術の観点から、アート・ワークショップ、展覧会、レクチャー／ディスカッションなどを企画・開催する。これが「アートふる山口」の第一回となる。

(奥津聖) <資料からの引用>

山口では、YICA設立準備会が中心となって、短期間に多くの国内外のアーティストが来山し、レクチャーやワークショップが洪水のように開催されたこともあって、アートによる街づくり活動が少しずつ認知されはじめた年でした。その実施にあたっては、芸術関係以外の地域の多くの団体も巻き込んで、実行委員会を立ち上げる方式で活動が行われました。ワークショップという言葉も山口では、まだまだ認知度は高くありませんでした。山口商工会議所の街づくり活動も、YICA設立準備会の動きに連動した形で、「山口・まち・大学」特別委員会を設置し、アートの視点からの取組が行われました。現代芸術とは何か?という難しい問いも、街づくりという概念で昇華され、多くの人、団体との新しい関わりが出来はじめた時代でした。

(末永光正)

【1997年度（1997年4月～1998年3月）】

-アーティスト・イン・レジデンス 山口-

秋吉台国際芸術村開村に向けてのプレイベントとしてレジデンシー事業が展開され、YICA設立準備会が事業委託を受けて実施しました。山口市内中を舞台にアーティストが活動し、前年から山口青年会議所が開始したアートふる山口とも相まってアートによる街づくりの機運が盛り上がった時期でした。山口商工会議所にも大学と地域を結びつけるための特別委員会として「山口・まち・大学」特別委員会(嶋田日出夫委員長)が設置され、学園都市づくり分科会や創造ゼミ分科会が、YICA設立準備会の活動との連携により街なかで、アートによる街づくりの視点から活動を行いました。現在では珍しくなくなりましたが、当時の山口では先進的な活動で、現代アートが地域づくりに対して何ができるのか、という実験が始まった年でもあったように思います。

(末永光正)





2017.10.09

語り手:アラン・ジョンストン(A・J)

聞き手:鈴木啓二郎(鈴木)

スコットランド、エディンバラ

鈴木 30年前、20年前の山口とエディンバラの関わりについて教えてください。若い世代はその頃の国際的な関係を詳しく知りません。

A・J ヒデオ(=嶋田日出夫)とケイコ(=嶋田啓子)、そして彼らが運営するギャラリー・シマダとの関係がきっかけです。しっかりとした人間的な結びつきであるだけでなく、作品に関する基本的な共通理解がありました。抽象芸術に関する理解、そして作品とそれが展示される場所の関係についての理解です。招待されるアーティストたちにとって、それらはとても重要なことでした。

トーマス・シュトゥールトや、ミヒェル・ザウアー、ダン・グレアムといったアーティストたちの核は極めてヨーロッパ的であったにも関わらず、山口という土地に関わろうとする力強いエネルギーがありました。私自身は、日出夫から聞いてジョン・マクラフリンと雪舟にたどり着きました。こうした具体的な関係や、その含意が非常に重要です。マクラフリンは、アメリカと日本を相互に結びつける人物であり、雪舟にも関心を示していました。

さまざまな事柄がすぐにその土地をめぐる文脈に結びついていきました。トーマスもそうした偶然の一致を感じたのではないのでしょうか。デュッセルドルフにおいてベッヒャー夫妻の影響のもとに発展させてきた彼自身の写真のコンテキストを、まさに山口で見出したのです。そうした結びつきが彼の作品に顕著に影響を与えているのを見て、私はとても興味深く感じました。さらに私は、友人のリチャード・タトルと日本国内を旅した際に、マクラフリンが日本で活動し、彼の活動が日本の視覚文化と深く結びついていることも理解できました。こうした実感が大変重要です。

日本への滞在を繰り返していくうちに、さまざまな関係の文脈は広がり、日出夫と啓子は私が理解を深めるために有益な情報をつねに提供してくれました。そうした中、秋吉台国際芸術村の

設立準備が始まり、それが重要な意味を持ちました。秋吉台の独特な景観の中に特徴的な建物を設置して、その土地のアイデンティティを増幅し、知的創造性を活性化させる。こうした全体の文脈に、マクラフリンのとても大きな影響があると考えます。そして、奥津教授もまた、私の最初の日本滞在から関わっていました。

山口に滞在し始めて、次の大きな出来事は、日出夫からウォール・ドロウイングのシリーズの制作依頼を受けたことで、やはり場所に深く関わる仕事となりました。彼らはカタログも制作してくれました。振り返ってみると、この仕事で日本で作家活動を展開するために重要な足掛かりとなりました。そして、その直後に、さらに別の仕事の依頼がありました。松本薫という大阪在住のキュレーターが声を掛けてくれたのです。

彼女と一緒に大阪府のために美術館のプランを考えるという壮大なプロジェクトでした。また、それとは別に安藤忠雄の設計した建物に対するプロジェクトの提案もありました。安藤と親しい大阪在住の男性が所有する建物で、かなり大きな空間でした。そこで私は、山口生まれで広島と東京を拠点とする建築家である小川晋一と共同で取り組むことにしました。

小川さんとはこのプロジェクトであれこれ一緒に作業しました。そのときの写真がたくさんあるので必要なら送りますよ。山口で行ったインスタレーションの写真、ゆっくりとですがまとめてDVDに残そうとしているところです。あなたが持って帰れるように。そのときの写真だけでなく、大事な雪舟のアーカイブなど膨大な写真があります。とにかく小川さんとやったインスタレーションの膨大な写真のコレクションがあるのです。メールで送っても良いと思うけれど、印刷物の保存用コピーもあるかもしれない。少し待っていてください。

[……しばらく席をはずす。]

A・J もう一冊あるはずなんですが見つけれないみたいで。コピーを取るかな。マード・マクドナルドの長い文章と奥津教授の文章が載っている内容の濃いテキストで、事態がどう発展していったかを知るためにとても重要なテキストです。奥津教授は『パーケットParkett』誌にもトーマスについて論考を寄せていますが、流れを理解するのにとても役に立つので手に入ると良いですよ。嶋田さんたちはトーマスとの関係を続け、それがトーマスによる山口のドキュメントに至ったことはご存知ですね。そのデジタル化されたものは持っていますか？写真だけですか？

鈴木 デジタル化されていないと思います。当時、印刷会社はネガか写真から印刷したと思います。そのpdfファイルは見たことがありません。

A・J トーマスに関する日本のものをたくさん持っていますよ。

鈴木 1983年か87年に出版されたんですね？

A・J それを持っています。

鈴木 そういう感じですね。

A・J あるとき突然にね、トーマスの作品を持っている、ということがとても重要なことになりました。膨大な資料があるのですが、トーマスからもらったものも含めてディスクに入れてあげないといけませんね。

それと、このキューブの印象的な小さな本もコラボレーションで小川さんがデザインしてくれたものです。小川さんは、このプロジェクトのために建物に加えるディテールを考え、施工してくれ

ました。棚の上にそのコンクリートのキューブがあるでしょう。大阪でのプロジェクトのために製作したもので、大事な作品です。スーザンが戻ったら本を見つけてもらって、そこに大阪でやったインスタレーションの写真があるので、それを再現するというのも良いですね。ギャラリー・シマダでも展示しました。全く新しいセットを作ってインスタレーションするというアイデアも良いですね。出版やキューブについて嶋田さんたちとした話を残しておく必要があります。そうしたものを山口で記録に残しておく。そうしたらそれを新たに使うこともできます。

鈴木 トーマスが山口を撮影していた時、一緒にいらしたのですか。

A・J 居合わせた時もありましたが、トーマスとはたいがい時期がずれてしまいます。しかし、トーマスの作品には建築的な特性が明確にあるので、本のためにウォール・ドローイングを制作することと、ある意味、関係性があつたと言ってもいい。写真を撮ることは、ある意味「受け身」で、観察されるということですし、ウォール・ドローイングを作るために山口の建築の文脈の内側に身を置いて「受け身」の装置でいることとは繋がりがあつたのです。大規模な作品も作りましたが、ギャラリー・シマダの展示室内にもたくさんのウォール・ドローイングを制作しました。とても長い文脈となりました。だからこのコンクリートのキューブを使って、この物語を見直す、というのもとても良い考えではないかと思えます。というのも、このコンクリートの作品は、ギャラリー・シマダにおいてインスタレーションという文脈においてだけ展示されたものだからです。コンクリートのキューブはインスタレーションされるとある種、彫刻的な特性を持つので、事実としてウォール・ドローイングと緊密な関係性が生まれます。そういうことを反映するよう出版物をアレンジする、というのもよい考えだと思います。大阪の安藤さんの建てた美術館に作品をインスタレーションしたときもそうでした。たくさんの建築的な関係性が生まれました。例えば2つのブロンズ像や、私たちが美術館のアイデアに関する文脈の中で生み出した構造物。そこは大きな空間で、写真を見ればその規模がよく分かります。アーカイヴをよく探さないと。というのも、当時の写真が難しいのは、アナログだったのがデジタルに切り替わったことです。ですので、取り組んでいるものを撮ろうとするときにステップ・チェンジ、段取りが変化したことです。それから、この流れは、私が名古屋で行ったプロジェクトにも続いていきました。たくさんの写真が残っています。名古屋にある愛知県立芸術大学のために作品を制作したのです。そこはコンクリートで出来たはっきりとした意図を持って作られたギャラリーでしたので、そのために時間をかけて作品をデザインしました。そのギャラリーを知ってますか？

鈴木 訪ねたことがあります。片面がガラスですね。

A・J 内部もとても良いスペースですね。そこでたくさん作品を作りました。

鈴木 2つ質問していいですか？1つは、個人住宅の壁に施されたような屋外に設置されたウォール・ドローイングについてですが、そのアイデアはどこから出てきたのでしょうか。もう1つはコンクリートの作品のアイデアはどこから生まれたのでしょうか。

A・J 私の最初の作品展はデュッセルドルフでのウォール・ドローイングでした。デュッセルドルフのコンラッド・フィッシャー・ギャラリーです。そのギャラリーは実際のところ廊下そのもので、閉じた空間でした。2つの建物の間がガラスのドアで閉ざされた空間でした。写真を見せなければならぬですね。そうしたらよく分かると思いますが、そういう風にいつもやってきて、それが最初の作品展でそこからずっと続いてきたのです。例えば、ペネロペ・カーティスがテートでのプロジェクトを持ちかけてきたときも、天井にドローイングするというアイデアからその企画が生まれたわ

けで、自然なことでした。

ペネロペは、テートで私の興味を刺激した建築家が、日本と興味深い関係を持っていたブルーノ・タウトであるということを知って面白がっていました。タウトは『ニッポン』という本を書いていて、この本は私にとってとても重要な、神託とも言えるものになったのですが、この本がこのプロジェクトとの関連を作ってくれました。また、タウトは、テートにおいて建築家たちが仕事をするときのとても重要な指針になってきた、ということもわかってきました。タウトは、テートの建築構造に影響を与えたのです、つまり、彼は、建てられた形、アートと建てられた形の強い関係性を知っていたのです。

私はドイツで学びましたが、タウトもナチスが台頭したとき日本に赴きました。運の悪いことにタウトが滞在した時期の日本は、独裁的な性格の時代だったために困難な状況で、それで彼は日本を離れ、活路を見出そうとしてトルコに赴き、その地で亡くなりました。これには、別の類似も考えられて、それは単なる偶然ではなくて、とても面白い共謀関係とでも言えばいいのでしょうか、つまり、マクラフリンが「驚嘆すべき虚空」と呼んだ雪舟とマクラフリンの間の、14世紀に活動したアーティストと20世紀のアーティストの間に生まれた関係性、それにマクラフリンは深く関わっていました。とても興味深い文脈だと思います。これについては、マクラフリンに関するサイトを教えますので、調べてみてください。カリフォルニア在住のアーティストとしての彼の立ち位置から書かれています。そこにたどり着くまでに読んだ大量の文献のこと、日本の影響をととても強く受けて、それでボストンから日本に直行したこと、などを知ることができます。

鈴木 そろそろ終わりにしましょう。

A・J (鈴木が一眼レフのカメラで写真を撮影している) 光を捉えているみたいだね。

鈴木 光をとらえる……

A・J 起こったことのなかで、エディンバラでとられた初期の写真がとても重要だった、ということも面白いことだね。よし、では。





2017.10.18

語り手:マード・マクドナルド(M・M)

聞き手:鈴木啓二郎(鈴木)

スコットランド、エディンバラ

鈴木 エディンバラ・カレッジ・オブ・アート(ECA)やスコットランドと山口の関係の中でのあなたの関わりについてお話しください?

M・M ええ、とても興味深いものです。ご存知の通り、私とアラン・ジョンストンは長いつき合いです。フルーツ・マーケット・ギャラリーでの彼の展覧会が素晴らしく、それから彼の作品を知るようになりました。確か、80年代の終わり頃で、それからアランと意見交換するようになり、彼の作品によって山口がとても重要であることを知りました。雪舟についてもすでに言及していたはずですが、私にとって驚くべきことでしたが、1995年には、日本行きの航空券を手にしていました。「エジンバラ〜山口'95」という山口で開催されたイベントに出席するため、素晴らしい経験でした。私にとって非常に興味深かったことは、山口の人々がスコットランドについて、特にパトリック・ゲデイスの業績について、大いに関心を寄せていたことでした。

アランが嶋田日出夫さんと出会ったことが相当影響したのだと想像しますが、日本ではゲデイスに対する大きな関心があったことを後で知りました。私はできるだけ詳細に、そして興味を持ってもらえるように、そのシンポジウムに貢献するよう努めました。時が経つにつれ、私が日本人の関心を理解し始めて、全体的な関係はさらに深まりました。スコットランドでは気がつけなかったこともありましたが、例えば、チャールズ・レニー・マッキントッシュや1900年代の多くのアーティスト達の活躍です。また、私は岡倉覚三の仕事に限らず、当時の日本の動向についても理解し始めました。奥津聖さんによる岡倉の分析には同じような心情を見い出しました。様々な繋がりが、岡倉についてさらに調べていくうちに、アメリカとインド、特にタゴールが岡倉においても重要な人物だったことがわかりました。これらの2つの国は、ゲデイスにおいても非常に重要でし

た。本当にたくさんの繋がりがありました。

私にとって、1995年以来の山口との出会いの蓄積は、2004年に開かれた「By Leaves We Live」という素晴らしいシンポジウムへと結びつき、同名の出版物にもなりました。私はその時も日本を訪問する素晴らしい機会を得ました。もちろん、一方にはゲデイスがあり、もう一方には雪舟、特に山口市内の彼の庭がありました。山口を訪れる度にその庭をアラン・ジョンストンと訪れました。

そして、アランは雪舟がどのようなアーティストだったのかについて私の考えを深めてくれました。それは山口に限らず、スコットランドに対する理解も深めてくれました。例えば、2015年に開催されたアランの展覧会は、YICAではなく、インヴァネスの近くにあるハイランド・インスティテュート・オブ・コンテンポラリー・アーツ(HICA)で行われました。その文脈についてアランと私は互いに話し合い、スコットランド内において雪舟へと繋がる概念を探求しました。スコットランドと日本の思考の間には密接な感覚がありました。もちろん、それは発展しているので、密接な感覚というのは間違いかもしれませんが、それは継続的に進化しています。もちろん、それはパトリック・ゲデイスのような人が大いに期待していたことでしょう。これが私の山口との繋がりの概要です。

鈴木 1995年のシンポジウムや2004年の「エディンバラ〜山口」のために山口にいらした時の思い出は?

M・M 初めての訪問は率直に、とても素晴らしいものでした。成田で飛行機を降り、時差ボケもあって、駅に荷物を忘れてしまいました。最終的には手元に戻りましたがね(笑)。

アラン、そして大変快活な建築士のジェームス・グレイと一緒に旅しました。彼はECAの建築士で、とても大きな貢献をしました。その頃のことは私よりもアランの方が詳しく話せると思います。グレイは素晴らしい人物でした。電車に乗り、時差ボケで意識に霞がかかった状態で窓の外を眺め、霞のかかった富士山を見ました。二重の霞で「完璧」でした。まるで浮世絵版画のような感覚。わずかの瞬間でしたが、本当に記憶に残るものでした。実際、寝ないようにかなり努力したんです。山口に到着したら、幸運なことに、伝統的な日本家屋に滞在することになりました。宿泊先の家族の名前は忘れてしまいましたが、大変お世話になりました。とても親切で、伝統的な日本家屋での生活を体験させてくれました。それは私にとって日本の美学的思考を理解する点で、最も価値のある体験でした。実際、世界中で参考にされるべきだと思うくらい、大変価値のある経験でした。シンポジウム自体は、様々なイベントの複合体でした。そして、その中の幾つかは全く予想外なものでした。私は名刺をたくさん持って行ったので、地元の新문에写真付きで載りました。いつも名刺を配っていたものです。とても滑稽に思いました。

でも、実際には名刺の価値をいつも実感していました。その点で私は、日本に順応したわけです。伝統的な日本家屋での滞在以外にもう1つ、山口訪問で特筆すべきことは、日本の現代的な面もしっかりと経験した、という点です。東京も素晴らしい都市で大好きですが、山口は東京にはない、日本の別の側面をもった大変価値のあるところでした。日本海側にある、嶋田さんの会社が所有する宿泊施設へ行った時のことは、特に深く心に残る、啓発的な体験でした。

「エディンバラ〜山口'95」の、全ての企画がとても興味深いものでした。知的要素という点で、とりわけ素晴らしく活力に満ちた研究発表がたくさんありました。例えば、雪舟について深く掘り下げたアランの論文などです。その他にもたくさんありました。ただ、現地語を話せない外国人にとって、典型的な日本体験として、根本的には「文盲」の体験だったというべきでしょうか。私にとって、とても活力が得られるものだと感じた一方、日本の文字についてほんの僅かしか知らずに来た西欧人にとっては、名前を間違えて発音することですら出来ない状況です。私に何か語りかけられた場合もまた、とても愉快的な経験でした。

幸運にも、山口という文字はシンプルだったので、すぐに覚えられました。最初の頃です。実際、

私は日本や中国の漢字が大好きでしたし、どれもとても魅力的でした。もっと時間を費やしたかったですね。それで、根本的、機能的に文盲の状況にいたわけですが、多くの場合、促された通り、置かれた状況に身を置くだけでした。私たちは何が行われているかわかっていない状態でした。私だけがわかっていなかったのかも知れませんが。私たちはステージの両脇にいました。大勢の人たちの前で、ステージに上がるように言われました。いわば「ファッション・ショーの名誉ゲスト」のようなものでした。愉快でした。

別のファッション・モデルたちによる「勇敢なるスコットランド」の演奏もありました。本当に驚くべきものでしたし、同時にとても慎み深いものでもありました。山口の人々がスコットランドとのつながりを真剣に捉えていることを実感しました。そして、今日、ここに座り、こうしてあなたに話しているという事実は、そうした交流がさらに進んだ素晴らしい反映です。そして、それは未来に向かってさらに進んで行くのです。

鈴木 お話を伺いながら、都市計画者としての嶋田さんの社会的、政治的役割について考えていました。彼はCTC(クリエイティヴ・タウンズ・クラブ)という山口の建築士や都市計画者のグループを組織していました。パトリック・ゲディス、そしてあなたの思想や理論、研究からも何らかの影響を受けていたと思います。

M・M それは95年の興味深い側面の一つでしょう。その時、山口の川に沿って歩く企画がありました。アランがその時の写真をたくさん撮影していたはずですが。この企画は基本的には街がどのようなものであり得るかを再考し、再計画するというものでした。これは根本的に、ゲディスの思想そのものです。ゲディスがエディンバラに住んだ理由の1つは、エディンバラの都市計画がしっかりと開放されていたことだと思います。基本的に、岩の端にそって街があり、その周辺を他の様々なものが囲んでいるという状態でしたので、街がどのようなものであり得るかを考えるために都市計画をうまく活用することができます。アランもまた作品制作において、重要な情報を与えてくれる人物と一緒に考え、美術史家かつ理論家として現地に赴くということにとっても熱心でしたし、あなたの言う通り、嶋田さんにとっても重要なことでした。

ですので、これは学者とアーティスト達が、理想的に町と関わる手法だと思います。もちろん、今日、興味深いことは、リドルス・コートを通して再びエディンバラに焦点が当たり始め、あなたも参加した複合イベントが行われたことがすばらしく重要なことなのです。1995年に山口で行われたことが今になってエディンバラでも起き始めているということを実感します。明らかに、ゲディス自身が生きていた頃、それはすでにエディンバラで起きていたことでしょう。本当に循環しているのを感じます。とても目覚ましく、素晴らしい喜びを私に与えてくれますよ、本当に。事実、スコットランド人が山口にいるという代わりに、あなたが、山口を代表する日本人がエディンバラに来たということです。それが重要な違いをもたらします。

もちろん、去年、聖さんがエディンバラへ来て、そうした道を固めてくれました。その時はまだリドルス・コートは修復されていませんでした。ですから、これはゲディスの修復、山口からの影響という点で、本当に重要なことになりました。その重要性を正確に表現するのは難しいとは思いますが、「エジンバラ〜山口'95」に匹敵するくらい重要だと言えるでしょう。繰り返しになりますが、このことに深い喜びを感じます。骨折した腕を除いてですね。はっはっは。

鈴木 アランは、ここ30年ほどで山口の景観や町の様子が劇的に変化したと言います。私は最近、山口に来たばかりですが、彼が山口に初めて訪れた時、そこは田んぼと伝統的な家ばかりだったのに、今は車が多く、現代化されていると伺います。おそらくあなたも、1995年と2004年の間の大きな変化に気づかれたのではないのでしょうか。

M・M そうですね。山口への訪問はアランの方が頻繁に行っていることは覚えておいてください。私は、残念ながら、1995年、2004年、そして、2006年の短期間だけ、というように、実際には3回訪問しただけです。彼の方がさまざまな変化に気づいているでしょう。私が気づいた変化の幾つかは、損失です。例えば、素晴らしい近代建築。日本の建築で何ができるかということの見事な表明であった小川晋一さんのキューブ・ハウスが無くなってしまったことです。居住するための家ではなく、象徴としての家。それはとても強烈な作例でした。その家が取り壊されたことを聞いて本当に残念です。そのことによって突然、私は山口の変化に気付きました。木町ハウスという大変ユニークな伝統的な家屋も無くなったんですね。残念なことです。

都市計画の観点で述べるなら、現代的なものや伝統的なものの両方が見捨てられたということです。もちろん、こういったことは、膨大な計画紛糾のあるエディンバラに限らず、世界中いたるところで起きています。非常に重要な建築物を規制もなく大仰なホテルにしてしまう人々など。ご存じの通り、これは地球規模の問題です。山口だけでなく、こうした変化は大変問題であり、嘆かわしく思っています。

しかし一方で、山口には、保存と継承に関して、雪舟のスタジオという世界的レベルで1つの根源的な事例があります。私は15世紀終わりのこの人物に触れることができたという実感があります。想像ですが、何年かの間にある程度は改修がなされているとは思いますが。入口のドアは改修保全されたでしょう。しかし、これは世界クラスの例です。このことはアランに東屋プロジェクトの着想を与え、彼のプロジェクトの多くは、あのスタジオに由来していると思います。

山口に行ったことのある私やアランの友人の1人である、リチャード・ダンというオーストラリアのアーティストも、大変面白い人物です。彼の奥さんはメルボルンにあるRMITギャラリーを運営しています。リチャードとスーザン・デヴィーと日本とのつながりの結果、日本に焦点を当てたエッセイ集がRMITギャラリーから刊行されました。本当に価値のある出版物で、数年前、再版されました。その中に、私が雪舟のスタジオについて論じた「We all need shelter」というエッセイが収録されています。

繰り返しになりますが、1500年、1490年、あるいは1460年以降、いつ建てられたかについては正確には分かっていませんが、国際的な重要性を持った場であることは明らかです。それは国際的なアート・プロジェクト時代における「場」として、しっかりと位置づけることができます。山口から派生したのです。このような生存や文化的重要性のステートメントという観点から、ゲディスが関心を示したであろう山口の建物をあげるなら、雪舟のスタジオだと思います。

鈴木 大変勉強になります。山口やYICAとの関わりから生まれたプロジェクトが幾つかあったのですね。あなた方に対する彼らの貢献や国際的な関心。その一例としてRMITがあった。他にもそういったプロジェクトがありますか？ HICA(Highland Institute of Contemporary Art)の存在は知っています。

M・M 山口に関して言うと、アランの展覧会はとても興味深い内容でした。私にとっては、あらゆるプロジェクト同士に繋がりががあります。RMITがとても良い例ですが、山口と関わるようになってすぐに山口が私の研究を深めてくれました。例えば、スコットランドでのケルトの復活について論じる際にはいつでも、私はインドと日本の両方についても言及します。つねに強調していることですが、これらにはとても重要なつながりがあるのです。ゲディスだけではなく岡倉にとっても。岡倉について知ってはいましたが、山口との関わりがなければ、聖さんから聞いてなければ、これほど親密な視線を持つことはなく、少しばかり距離のある見方になっていたでしょう。ですから、私にとって、重要なプロジェクトの機会になりました。ほかにも、2006年に山口から戻ってからは、まともなデジタルカメラを所有するようになりました。

それで、私は少しばかり写真を撮影していたので、ダンディーでそれらを展示し、ロスチャイル

ド・アカデミーでも活用しました。これらは物理的に実現したことでした。しかし、私にとってもっと重要なことは、世界の反対側で起こっていることと対比しながら、エディンバラで起こっていることを全体性の中で理解するということでした。

鈴木 情報を共有する道具、つまり記録について言及されました。現在、YICAはアーカイヴに取り組んでいます。それが、私がここであなたに過去の経験について話を伺っている理由の1つです。DVDに写真をまとめてくださっていますね。YICAのアーカイヴ・プロジェクトについて何かお考えはありますか？私たちの手元には出版物、フライヤー、写真があります。まだまだ掘り起こさなければなりません。

M・M そのことには私も関心を寄せています。現時点で、全てを保持しておく。編集しすぎないように、とにかく保持することを優先させた方が良いでしょう。すべて役に立つと思ったので、できるだけたくさんお渡しします。私が撮影したものの幾つかは完全に無くなってしまったものもあるかも知れません。エフェメラ（一時的な筆記物及び印刷物）、例えば「エジンバラ・山口2004」のポスターは試作的な出来のものだったので、保管されていないかも知れません。でも、何らかのアーカイヴ、少なくともディスクには残っていることを願っています。

そして、アーカイヴに関する私の本当の願いは、それ自体が創造的なプロセスになることです。分からない資料に出くわしたら、いつでも聖や日出夫、または私やアランにメールで問い合わせたらいいでしょう。私たちがその前進をサポートし、データが構築されていく。今後の作業の中で、あなたが分からない写真に出くわした時は私にメールを送ってください。私が説明を加えましょう。説明があるものは比較的少ないでしょうから。あなたにとって明白な写真もかなり多いでしょうけれど。そう言えば、古いペンタックスのカメラの中にリバーサル・フィルムが入っていたので、ある時幾つかをデジタル変換しました。たくさんではないですが、当時の写真でデジタル化したものもわずかにあります。アランはもっと持っているでしょう。スライドを確認して、あなたに転送します。

鈴木 すでにかなり時間が経過してしまいました。どのようにお尋ねしましょうか。あなたの旅行やこのインタビューを通して思い起こすことはありますか？もっと伝えたいことが何かありますか？

M・M 一番最近、日本を訪問した2006年、エディンバラ・カレッジ・オヴ・アートが東京の森ビルでイベントを企画しました。東京では、山口のことを話す機会がありましたし、大阪でも山口でのゲディスについて話しました。その後、山口に行ったのですが、異なった次元で、東京でのイベントに影響を与えました。それは『メトロノーム』という本に記録されています。見たことがあるかも知れないですね。

そこにある黄色い本です。この本の内容自体は山口についてではありませんが、山口無しには実現しなかったことでしょう。見てください。これは小川晋一さんの家の写真で、これは私が雪舟庭でスコットランドの写真を持った姿を、アランが撮影した写真です。そして、これがスコットランドの写真……。

この全体的な概念。そうです。人類に深く根ざした行為として、注意深く石を配置するという思考について、まだきちんとお話ししていませんでした。山口の雪舟庭でもそうした活動が見られますし、スコットランドのスタンディング・ストーンもその一例です。ご理解いただけるとは思います。同じ意図があったと主張しているのではなく、アーティストの活動としてです。基本的にはここを見てください。風景と深く調和した美的な石です。

アランと雪舟庭を見に行く時に魅了されることは多々ありますが、その時、私はわざとルイス島のカラニッシュ・スタンディング・ストーンの写真を持って行きました。2004年のことです。私は、

さまざまな石の配置について度々講義をしていました。例えば、イアン・ハミルトン・フィンレイです。

石を置くということが根源的な人間の活動であるという観点から、私は雪舟庭と、スコットランドの有史以前の石の配置を比較してきました。時代に応じて、異なった重要性がそこに記録されていると思いますし、おそらく、具体的には異なった目的があるでしょう。最終的には、アーティストたちは景観に敬意を持ち、非常に共鳴する手法で石を配置します。そういったことを踏まえ、アランが私に雪舟庭を見ながらこの写真を持つようにと促し、この写真を撮影したのです。

そして、それはある意味たいへん役に立つ写真となりました。『メトロノーム』にも掲載されています。山口はこういった点でもきっかけをもたらしています。また、魅力的な分野でもありますね。1960年代のランド・アートの時代に成された、有史以前の作品をめぐる再解釈とも関係があります。ロバート・スミッソンは明らかな例です。また、私たちはここでも深い関係を持っていますし、ある意味、驚きなのですが、間違っているかもしれませんが、アメリカのランド・アートに関しては、日本庭園に関する考察が大いにあったんだと思います。しかし突然スコットランドから来た私にとって、スタンディング・ストーン配置の幾つかは、大変共鳴するものでした。

完全に異なった文化的系譜ですが、それらを裏付けたいと考える人がいるかも知れません。有史以前のもので、決して分かりませんが、とにかく、何のために行われたのか。しかし、分かっていることが1つあります。それは、議論の余地の無いことですが、これらを置いた人たちは、とても美的な感覚でそれらを置いたのです。ある意味この考えは、アートが歴史や文化を超越していくことができるということ、純粋に私たちはこういった新しいことをしている、有史以前、現代、日本、スコットランド、などさまざまな呼び方をしているだけです。これはとても興味深いことです。スコットランドには、たくさんのアーティストや学芸員がいることをとても幸運だと思います。ご存じかどうか分かりませんが、リチャード・デマルコのような人々など。

彼はルーシー・リップードと仕事をしていました。ルーシー・リップードは1983年に『オーヴァーレイ』という素晴らしい本を書きました。日本については言及がありませんが、スコットランドのランド・アートや有史以前のアートについてたくさん語られています。これらのことは強烈に興味深いことだと思いますし、もちろん、雪舟は雪舟としてミニマリスト・アーティスト達を鼓舞しています。そして、アランが彼の筆使い、つまり、彼の鉛筆の筆跡について語るとき、雪舟の簡潔でありながら複雑な技術に対する尊敬と分析がとても興味深いのです。全ては、雪舟から来ているんですね(笑)。

鈴木 全ては雪舟から来ている。分かりました。最後の質問をしたいと思います。これまで思い出について伺ってきたので、今度は未来の洞察についてお話を伺いたいと思います。例えば、ECAやスコットランド、スコットランドのアート・コミュニティと山口の関係について。私のような中堅世代は、過去20〜30年の出来事をよく知りません。何を望んでいますか？または、このような文脈でどのような洞察をお持ちですか？

M・M そうですね、とても興味深いことが起こっていると思います。1つの事実として、あなたがその場面にいるということです。あなたはアランや私、聖さんや日出夫さんなど、みんなのことを知っています。それは私にとって、信じられないくらい重要なことです。あなたは国際的な経験や旅の仕方もしっかり知っています。それらに加えて、リドルス・コートが関わっているということが完全に素晴らしいことです。ここには大きな新しい可能性と勢いがある。これは1年前には私が言えることではありませんでした、1年前でさえ言うことができなかつた。同時に、私は執筆にもっと時間を費やすために、大学を早く退職します。名誉教授になりますので、それが即座に私に役に立つでしょう。お役所仕事のメールにいつも時間を取られずに済みますから。ここ数年間以上に、私ももっと貢献したいです。また、これまでにやってきたハイランドでの成果も結びつけていき

いです。実際にはそれは重要でないと思いますが。本当に重要なことは、先ほど、インタビューよりも前に伝えましたが、あなた自身とリドルス・コートが結びついたことです。なぜなら、そこから素晴らしいことが育ち得ると思うからです。何かは定かではありませんが……。

でも、今、行われているスコットランドの学芸員達の日本への旅は興味深いですね。そこから何が生まれるかわかりませんが。どんなものになるか。例えば、尚子・メイボン。しばらく前から知っているのですが。彼女は非常に重要な役割を担う人物になるかもしれません。資金調達が問題となりますが。例えば、今回のあなたの滞在に関して資金調達がされなかったということを知って心苦しみます。こういったことは整備されなければなりません。

どちらへ行く際もきちんと滞在できるべきです。少なくとも、今はリドルス・コートがあります。強く印象付けられました。私が到着したとき、以前に一緒に行ったときを覚えていますね。完全に革命的なことですよ。お分かりですね。ここには大まかな基礎ができたんだと思います。とても興味深いですね。

「エジンバラ～山口'95」が本当の基礎、実際、日出夫さんとアランの出会いが本当の基礎だと思います。しかし、今、そこに何かは築かれてきています。何ができ得るか、もっと考えたいですね。

鈴木 私個人の興味からなのですが、今、日出夫さんや啓子さん、嶋田家族は、環境に配慮した生活や再生可能エネルギーに大変興味をお持ちです。そして、スコットランドはとても発展していますね。それを取り扱ったり、発展させたりしている効果的で高度に発展した国です。それから、オークニー諸島のピア・アート・センターのニール・ファースさんにも出会うことができました。このような関係について何かお考えはありますか？

M・M 私にとってとても重要なことです。ニールはアランの寛大な支援者ですし、再生可能エネルギーに関して、オークニー諸島は最善な位置にあります。初めてオークニーに行ったとき、80年代か、90年代に、実験的な風力発電機がありました。今は、スコットランドとオークニーの間、本土とオークニーの間にあるペントランド海峡の潮流を利用した発電が主流になっています。再生可能エネルギーに関して、それに関連するものはなんでも推進していけるでしょう。少なくとも、今日もし、そのような考えを先導する思想家がいるとしたら、ゲディスのおかげだと思います。彼はそのようなことを完璧に支援します。特定の関心でしたが、急速に一般化した環境に関する関心事ですね。より詳細なこともお話できると思いますが、そういったことに大いなる支援や特別な取り組みがあると思います。ところで、日出夫さんの活動にしっかり気づいていなかったのもう少し教えてください。

鈴木 約3～4年前、日出夫さんが日本の研究者や学者の人による一連の講義を企画しました。彼らはスカンディナヴィア諸国や他の場所、例えば、ドイツのような国で研究し、環境や再生可能エネルギーに関する非常に専門性の高い研究者たちでした。日出夫さんは彼らを山口に招待し、彼らに関わった活動やどのように発展したかについての講義をいただきました。

残念ながら、私はその場にいなかったのですが、日出夫さんにはこのような人々や地元の政治家、自然に関する活動をする人などとの繋がりがあります。彼はまたドイツ人のベネ・ミュラーさんという方とも繋がりがあります。彼はもともとアーティストで地元のコミュニティー・メンバーと一緒に会社、民間企業のような会社を作りました。それはそのメンバー達が所有し地域や町にエネルギーを供給しています。

それから、嶋田さん達はゆっくりとですがアート・ビジネスから離れて行っています。もちろん、アートの大きな支援者であることは変わりません。しかし、彼らは代替エネルギーであったり、自然と文化が統合された生活であったりにより熱心になっています。こういったことが彼らの関心ご

とになりました。

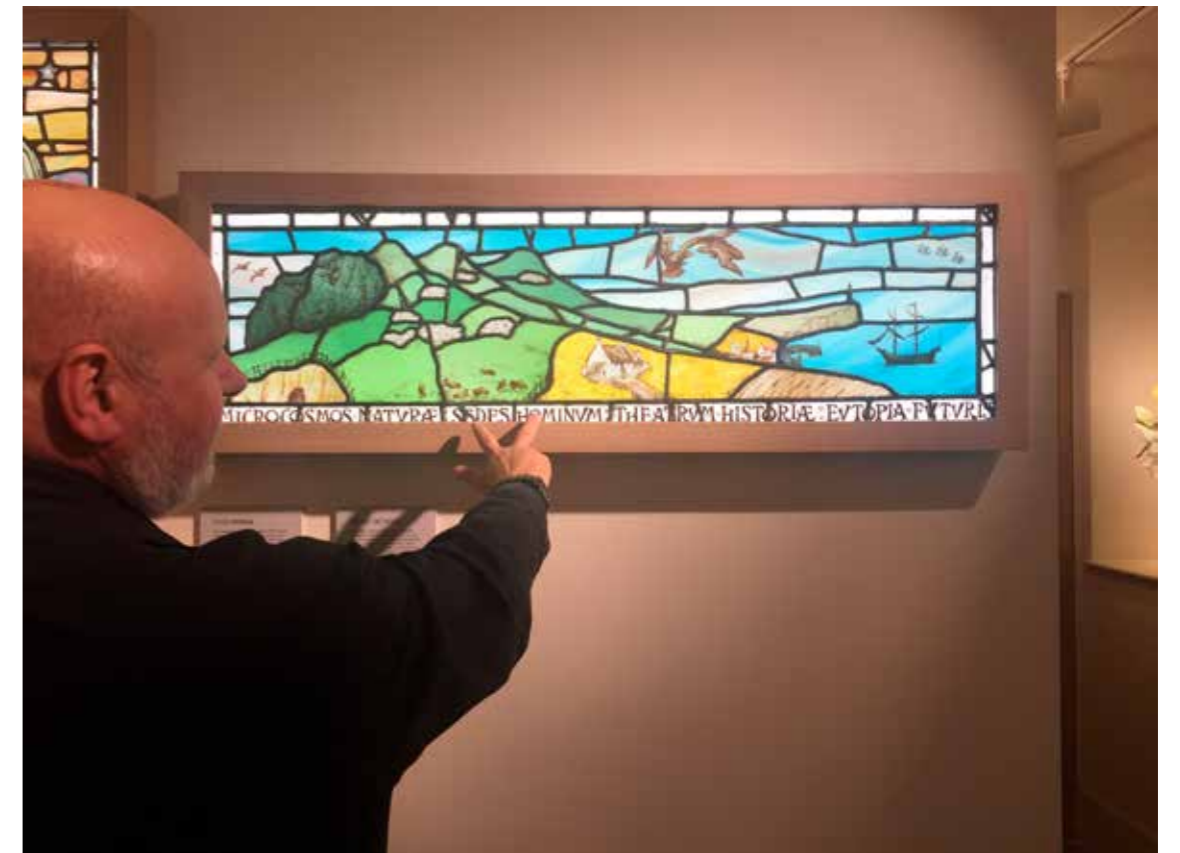
M・M 恥ずかしながら、HICAへ初めて行った時のことです。イアン・ハミルトン・フィンレイの息子のアレック・フィンレイは、風力発電のようなものの肯定的な視線にとっても関心がありました。実際にHICAのすぐ外には二つの風力発電機がありました。その観点からみてとても興味深いですね。彼も関われるかもしれませんね。

しかし、そうですね。彼らの功績は素晴らしいですし、多くのアーティスト達が今、環境に対する役割を真剣に捉えています。実は他にも友達がいる、グラスゴーのレイコ・ゴトーです。アメリカ人のティム・コリンズと結婚した日本人です。コリンズはスタジオを持っていて、彼らは再生可能エネルギーに関してはそうでもないのですが、古い森にとっても関心があります。

例えば、スコットランド全土はカレドニアン・フォレストの上に存在していますので、彼らは森の断片を特定することに大変力を注ぎ、どのように地域のコンディションを保全するかを考えています。生態系や地域資源に取り組んでいるのです。そういった人々もいます。そうした観点でも、ここで活動をする人々は有力かも知れません。

鈴木 どうもありがとうございました。質問を次々と思いついてしまいます。これ以上続けると、あなたにご負担が……。

M・M 大丈夫です。出発点ですよ。ここから始まる。



YICA設立総会

主な行事

- 5月23日(土) 講演会Ⅰ—特殊美学:東欧のコンテキストにおけるメディア及びアートの戦略
講師:マリーナ・グルジーニチ
設立総会
会場:山口県立美術館 講座室
懇親会
会場:菜香亭
- 5月25日(月) 講演会Ⅱ—身体・哲学・テクノロジー@2000
講師:マリーナ・グルジーニチ
会場:山口大学学生会館
- 5月28日(木) 講演会—ロシアの非公式芸術(1953年～1991年)
講師:カール・アイマーマッハー
会場:C・S赤れんが
- 8月25日(火) 秋吉台国際芸術村開村
- 10月8日(木) マリア・ノルトマン in 山口
セッションⅠ
会場:山口県立大学
- 10月9日(金) セッションⅡ
会場:山口大学人文学部
- 10月10日(土) アートふる山口への参加(～11日(日))
YICAアート・ワークショップ「←外へ→1998」
“じぶん”をつくらう!
- 10月11日(日) マリア・ノルトマン in 山口
セッションⅢ
会場:一の坂川多目的広場
- 10月16日(金) ナン・ゴールディン展(山口県立美術館,～11月29日(日))
- 12月4日(金) ベアト・ストロイリ展(山口県立美術館,～1999年1月17日(日))
- 3月20日(土) 臨時総会
会場:菜香亭



アートふる山口でのYICAワークショップは、アーティストと子供たちの接点として、普段、アートには疎遠な市民を巻き込み、地元アーティストと一緒に作品づくりをする貴重な機会でした。参加者には、作品を掲載した報告書を作成して贈呈しました。アートふる山口を見に来た人がワークショップに参加して作品づくりに加わるなどアートを身近に感じてもらえる場の提供ができたのではないかと考えます。いつでもどこでもアートに触れ、クリエイションを呼び覚ますような場所が、街中に展開しました。街づくりにおいてYICAの存在は大きかったです。

(末永光正)

NPO法人化 菜香亭での月例会

主な行事

- 4月24日(土) 委員会・部会／例会(菜香亭)
- 5月10日(月) NPO法人申請
- 5月22日(土) 第1回役員会／通常総会(菜香亭)
ゲスト:河野通孝(山口県立美術館学芸員)
- 6月26日(土) 「エジンバラ～山口」& フィル・ニブロック講演会
- エジンバラ～山口
講師:アンドリュー・パトリツィオ(エディンバラ美術大学研究部長)
メル・ゲーディング(エディンバラ美術大学主任特別研究員)
アラン・ジョンストン(エディンバラ美術大学上級講師)
- アーティスト・プレゼンテーション
講師:フィル・ニブロック(インターメディア・アーティスト)
- アーティスト・イン・レジデンス事例紹介
紹介者:新井聡里(アーティスト・イン・レジデンス主催者)
主催:山口市
協力:YICA
会場:ちいさなプラザ
- 交流会／例会(菜香亭)
ゲスト:ヨーク・ガイスマル(スウェーデン, アーティスト, 秋吉台国際芸術村滞在予定)
- 山口市70周年記念文化事業助成公開審査会
／YICAアートふる部会プレゼンテーション(山口市中市商店街NAC)
- 7月24日(土) 委員会・部会／例会(菜香亭)
- 8月28日(土) 第2回役員会／例会(菜香亭)
ゲスト:大内文化まちづくり研究会, 大内文化ネットワーク
- 9月10日(金) 特定非営利活動法人認証, 法人格取得
- 9月25日(土) 委員会・部会／例会(菜香亭)
- 10月2日(土) アートふる山口への参加(～3日(日))
アート・ワークショップ 1999「お庭をつくらう!」
- 10月23日(土) 委員会・部会／例会(菜香亭)
ゲスト:デロー・ルーカス(ドイツ, アーティスト, 秋芳町交流の館滞在)
- 11月5日(金) 講演会「現代芸術という迷路」(山口大学共通教育講義棟)
- ジャスパー・ジョーンズとアメリカの詩
村山康男(多摩美術大学教授)
- コンテンポラリー・ダンスの冒険
尼ヶ崎彬(学習院女子大学教授)
主催:山口大学共通教育センター「芸術と表現」科目



- 11月27日(土) 委員会・部会／例会・おごうさん誕生会(菜香亭)
ゲスト:山口広在(写真家, 秋吉台国際芸術村滞在)
- 12月11日(土) 山口広在写真展「赤い土」秋吉台国際芸術村, JRバス停秋吉駅ほか(～24日(金))
- 12月25日(土) 第3回役員会／例会(菜香亭)
- 1月9日(日) みんなでテンペラしよう!(山口市中市商店街NAC)
講師:河村正之(東京学芸大学助教授)
企画:山口大学学生ボランティア(山口商工会議所「山口・まち・大学」特別委員会)
指導:菊屋吉生(山口大学助教授)
- 1月22日(土) 委員会・部会／例会(菜香亭)
ゲスト:畠山直哉(写真家, 秋吉台国際芸術村ワークショップ講師)
深川雅文(川崎市市民ミュージアム学芸員)
- 2月27日(日) 委員会・部会／例会(菜香亭)
ゲスト:Belu-Simon Fainaru(イスラエル, アーティスト, 秋吉台国際芸術村滞在)
- 2月29日(火) ヨーク・ガイスマル展(山口県立美術館, ～3月26日(日))
- 3月5日(日) 「山口・まち・大学」との合同交流会
レクチャー
講師:ヨーク・ガイスマル(県美で展覧会, 秋吉台国際芸術村滞在)
会場:山口県立美術館
交流会(菜香亭)
- 3月12日(日) アーティスト・イン・レジデンス2000
ヨーク・ガイスマル「Fish Dinner」秋吉台国際芸術村
- 3月25日(土) 第4回役員会／例会(菜香亭)



前年度3月の臨時総会で特定非営利活動法人設立議案が承認され、申請手続きを進めました。5月10日に申請し、丁度4ヵ月後の9月10日に承認されて、法人格を取得しました。山口市で最初のNPO法人でした。

6月24日から29日まで、「エジンバラ～山口2001」の打ち合わせで、エディンバラからアラン・ジョンストンら3名が来山しました。県立美術館では「エジンバラ～山口」と連動させた雪舟展の開催が提案されましたが、すでに他の雪舟展の企画が進行中という理由で実現できませんでした。26日には、「ちいさなプラザ」(米屋町の店舗跡)で「エジンバラ～山口」の説明会が行われました。この「ちいさなプラザ」は、後に山口情報芸術センターとなる市の文化施設がどのような活動を目指しているかを市民へ伝えるためのものでした。同日の6月例会では、「ちいさなプラザ」の事業で来山されていたフィル・ニブロックさん(ニューヨーク在住のメディア・アーティスト)や、京都でレジデンス事業を主催されている新井聡里さん、翌2000年に県立美術館で展覧会が開催され、秋吉台国際芸術村でもレジデンスを行うアーティストのヨーク・ガイスマルさんと、実に多くのゲストに参加して頂き、大変盛り上がりしました。

この年度から例会を菜香亭で開催することにしました。5代目主人のおごうさん(齊藤清子さん)にも、よく参加して頂きました。彼女の純粋な山口弁は、優しく特徴あるイントネーションで、暖かい雰囲気にも包まれました。(嶋田日出夫)

GAW展 パートII 参加 ワークショップ “きもちをつたえよう!”

主な行事

- 4月28日(金) 例会(菜香亭)
—Art in The Home部会
—GAW展 路地から路地へ パートII 部会
—アート・ワークショップ2000部会
- 5月30日(火) 第1回役員会／通常総会(菜香亭)
ダン・グレアム講演会ビデオ上映(東京都現代美術館屋外展示作品設置記念講演会)
- 6月23日(金) 例会(菜香亭)
—GAW展部会
—アートふる部会
—作品発表／白川美幸
- 7月29日(土) 例会
- 7月30日(日) GAW展 パートII (大島郡東和町沖家室島, ~8月20日(日))
※実行委員会
- 8月26日(土) 第2回役員会／例会
- 9月23日(土・祝) 例会(菜香亭)
—アートふる部会
—Art in The Home部会
—ホームページ部会
- 9月30日(土) アートふる山口への参加
YICAアート・ワークショップ“きもちをつたえよう!”(～10月1日(日))
会場:多目的広場,一の坂川沿い
- 10月1日(日) アートふる山口
辻耕ワークショップ「わたしの今いるところ一島に行く」
会場:多目的広場,一の坂川沿い
- 10月28日(土) 例会
- 11月25日(土) 第3回役員会／例会
- 12月23日(土・祝) 例会
- 1月27日(土) 例会
- 2月24日(土) 第4回役員会／例会
- 3月24日(土) 例会



新宿ゴールデン街で1999年に開催されたGAW展(Goldengai Art Waves)は、ゴールデン街にあるバーのママでもあり、作家でもある久紹(くろ)氏が中心となり、50名以上のアーティストが参加した現代美術展でした。その久紹氏が、次に開催しようと考えたのが、なぜか山口県周防大島町の小さな島、沖家室島でした。バーの顧客で山口県の美術関係者を頼り、当時YICAの会長だった奥津先生に相談があったことから、YICAがGAW展パート2に関わることとなりました。久紹氏をはじめ、海老塚耕一氏、岩永淳子氏ら、パート1からの出品者に混じり、その後山口県美術展覧会で大賞を受賞しYICAとも長い付き合いになる范叔如さんと出会ったのもこのときです。

秋に開催されたアートふる山口では、1999年に滞在制作した辻耕さんが、「わたしの今いるところ一島に行く」と題してワークショップを開催しました。伸ばした腕を川にみたく、場所と時間を身体で測る話が新鮮でした。

(原井輝明)

アート・イン・ザ・ホーム ワークショップ“五感を超えて旅に出ようよ。”

主な行事

4月21日(土)	アート・イン・ザ・ホーム(山口・エジンバラ)について協議 Karen Forbes(エジンバラ美術大学絵画コース責任者) Josephine Melville(エジンバラ美術大学マーケティング責任者) プロジェクト概要= ジェーン・ワリロウ(キュレーター, エディンバラ, シティー・アート・センター) サラ・マンロー(キュレーター, エディンバラ, コレクティブ・ギャラリー)
4月28日(土)	部会/例会(菜香亭)
5月19日(土)	第1回役員会/通常総会(菜香亭)
6月10日(日)	ヴェネツィア・ビエンナーレ第49回国際美術展「人類の舞台」(~11月4日(日))
6月22日(金)	部会/例会(菜香亭) ゲスト:オラ・ピアソン(秋吉台国際芸術村滞在アーティスト)
7月28日(土)	部会/例会(菜香亭) 作品紹介:松尾宗慶
8月	アート・ワークショップ in きらら (やまぐち県民文化祭「アートによる生活文化の祭典」) アーティスト・レクチャー 八谷和彦「ぼくらのアート」(C・S赤れんが) ワークショップ「きららTVをつくろう」 (きらら博会場, 山口市阿知須) 山口中央公園整備着手(山口情報芸術センター建設工事)
8月31日(金)	部会/例会(菜香亭) 作品紹介:原井憲二
9月2日(日)	横浜トリエンナーレ2001(~11月11日(日))
9月11日(火)	アメリカ同時多発テロ
9月28日(金)	部会/例会(菜香亭) 横浜トリエンナーレ撮影記録紹介:辻憲行(秋吉台国際芸術村)
10月7日(日)	米軍のアフガニスタン侵攻
10月28日(日)	アート・イン・ザ・ホーム (やまぐち県民文化祭「アートによる生活文化の祭典」, ~11月10日(土)) 主催:やまぐち県民文化祭実行委員会, 「アートによる生活文化の祭典」実行委員会 会場:山口市中心市街地周辺
11月3日(土)	アートふる山口への参加 YICAアート・ワークショップ2001“五感を超えて旅に出ようよ。” 会場:多目的広場, 一の坂川沿い
11月4日(日)	アート・イン・ザ・ホーム ワークショップ 講師:ポール・カーター 会場:多目的広場, 一の坂川沿い

11月10日(土)	アート・イン・ザ・ホーム シンポジウム 会場:中市コミュニティーホールNac
11月	曾根裕より「Beautiful Artist」の提案を受ける (9.11の事件を受けて発案した展覧会. 2002年度実施)
12月22日(土)	第2回役員会/例会・おごうさん誕生会(菜香亭)
1月26日(土)	部会/例会(菜香亭)
2月23日(土)	部会/例会(菜香亭) ゲスト:原井輝明 浅井真理子 ラリッサ・ヒョース(秋吉台国際芸術村滞在)
3月2日(土)	Art in the Home in Edinburgh(エディンバラ市内各所, ~31日(日))
3月23日(土)	第3回役員会/例会(菜香亭)

「エジンバラ～山口'95」の後もエディンバラとの交流は続き、99年頃には「エジンバラ～山口2001」として「アート・イン・ザ・ホーム」の検討が始まりました。アラン・ジョンストンとチャールズ・エッシュラによる提案で、人々が生活する“場”を重視するパトリック・ゲデイスの思想が背景になっています。

2001年秋と2002年春に両市で開催された展覧会では、人々のプライベートな住空間を会場として、11組のアーティストが作品を制作しました。鑑賞者はそれぞれの家庭を訪問するような心持ちで作品に接することができたように思います。それは、ギャラリー、美術館、パブリックスペースの社会的政治的機能の問題を再考するだけにとどまらない点で、ゲデイスの思想が体现された展覧会でした。特に、エディンバラでは、実際に生活している住居が多く使われ、そこで暮らすの人々も様々で興味深いものでした。

9・11が起き、アフガニスタン侵攻が始まりました。そうした世の中の動きと別次元に存在しているように見えた展覧会に、違和感を感じていたところ、9・11が起き、友達と繋がれない不安から曾根裕が始めた「Beautiful Artist」と言うプロジェクトの提案がありました。友達の作品に自分の作品を加えてプライベートな展示を行い、次の友達にそれらを送って同様の展示を行う、という行為を繰り返しながら、さまざまな都市へ巡回させていくものでした。このプロジェクトは2002年にYICAが引受けました。

また、YICAは「アートふる山口」に引き続き参加し、ワークショップ「五感を超えて旅に出ようよ。」を開催しました。五感をとぎすまして作品をつくることで、何か新しい経験してもらうワークショップです。会場には5つのゲートがあり、それぞれ、視覚・聴覚・触覚・味覚・嗅覚を刺激する展示物を体験したうえで、作品を制作してもらいました。

(白川美幸)

Beautiful Artist ワークショップ “おすましーの坂川”

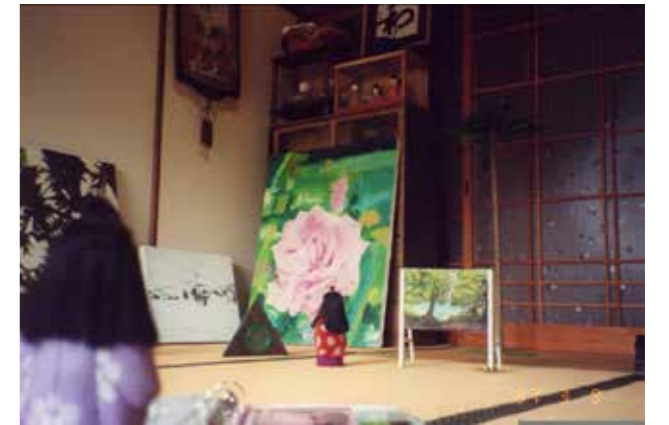
主な行事

- 4月20日(土) YCAMプレイベント アーティストがまちにやってくる
藤浩志, きむらとしろうじんじん, 小山田徹, 野村誠(山口市内各所, ~5月6日(月・振休))
- 5月25日(土) 第1回役員会/通常総会(菜香亭)
Beautiful Artist展オープニング(菜香亭大広間ほか, ~6月6日(日))
- 6月8日(土) 見直し市民委員会(全8回, ~7月22日(月))
ドクメンタ11(カッセル, ~9月15日(日))
- 6月17日(月) Beautiful Artist展—松尾宗慶(松尾邸, ~8月19日(日))
- 6月29日(土) 例会/部会(菜香亭)
- 7月17日(水) アンドリュー・スネドン講演会 会場:山口大学
- 8月30日(金) 例会/部会(菜香亭)
—エディンバラでのアート・イン・ザ・ホーム報告 報告者:白川美幸
Beautiful Artist展—白川美幸(白川邸, ~9月17日(火))
- 9月14日(土) YICA釜山ツアー(~18日(水))
- 9月15日(日) 釜山ビエンナーレ2002(釜山市立美術館ほか, ~11月17日(日))
2002 亜細亜芸術学会 韓国大会(~18日(水)) ※奥津聖参加
- 9月28日(土) 第2回役員会/例会(菜香亭)
- 10月5日(土) アートふる山口への参加(~6日(日))
YICAアート・ワークショップ“おすましーの坂川”
会場:多目的広場, 一の坂川沿い
- 10月14日(月) 例会/部会(木町アトリエ)
ゲスト:ジャン=マルク・ピュスタモント
- 10月16日(水) ジャン=マルク・ピュスタモント展
(山口県立美術館, ~11月24日(日))
- 10月27日(日) パトリック・ゲディス・プロジェクト打ち合せ
アラン・ジョンストン, イアン・ハワード来山(~30日(水))
- 11月13日(水) Beautiful Artist展—末永光正(末永邸, ~12月7日(土))
- 11月23日(土) 例会/部会(木町アトリエ)
—ニュータウンアートタウン展報告
報告者:安原雅之, 中野良寿
- 12月26日(木) Beautiful Artist展—ノーヴァヤ・リューストラ
(安原・中野邸, ~2003年1月16日(日))
- 12月27日(金) 第3回役員会/例会(木町アトリエ)
プレゼンテーション:興野理
- 1月30日(木) 例会/部会(木町アトリエ)



3月1日(土) 例会/部会(木町アトリエ)
ゲスト:ダニオ・マン, ヘギユ・ヤン, ミッコ・カニーニ

3月27日(木) 第4回役員会/例会(木町アトリエ) ゲスト:ナオミ・ウェスト



前年の9・11アメリカ同時多発テロをきっかけに、曾根裕が始めたプロジェクト「Beautiful Artist」展が、菜香亭で開催されました。曾根の作品1点を友達のアーティストに送り、新たな作品を加えてそのアーティストのスタジオ等で展示し、それをまた別のアーティストに送って展示する行為を繰り返しながら、ニューヨークなどを經由して、山口に届けられたものです。菜香亭大広間でそれらの作品を展示し、曾根裕、そしてニューヨークから数名のアーティストも来日して、YICAのメンバーと共に時代劇風の衣装を着てパフォーマンスを行う作品も動画撮影されました。

菜香亭での展示終了後、巡回型展覧会はYICAメンバーの松尾宗慶、白川美幸、末永光正、ノーヴァヤ・リューストラ、翌年、藤木律子、原井輝明へと引き継がれ、その後山口を離れて、次の都市へ引き継がれました(2004年に金沢を巡回。2006年には福岡と鹿児島藤浩志へ)。

10月には、アートふる山口でワークショップ“おすましーの坂川”を開催しました。参加者は一の坂川周辺を散策しながら、普段、気にとめないようなさまざまな音を録音し、その音を、作成された小さなスピーカーボックスから聞こえるようにして持ち帰るワークショップです。

また、秋には「エジンバラ・山口2004」に向けて、アラン・ジョンストン、イアン・ハワード(ECA学長)が来山し、プロジェクトの大筋について話し合いが行われました。

菜香亭で行われてきた例会は、木町アトリエ(木町ハウス)で開催されるようになりました。菜香亭は2003年春、おごうさんから山口市に寄付され、2004年に山口市天花に移築されて「山口市菜香亭」となりました。

(白川美幸)

ワークショップ“ひかるくうきゆるる” エジンバラ・山口2004に向けて



主な行事

- 5月23日(金) 第1回役員会／通常総会
Beautiful Artist展(藤木律子)オープニング(木町アトリエ)
- 6月4日(水) エドガー・ホーネットシュレーガー映画上映(木町アトリエ)
懇親会
- 6月15日(日) ヴェネツィア・ビエンナーレ第50回国際美術展「夢と衝突」(~11月2日(日))
- 7月25日(金) 例会(木町アトリエ)
- 8月18日(月) 例会／アートふる部会(木町アトリエ)
ゲスト:タケトモコ(チコ・トコ・プロジェクト), ヴィネケ・ガルツ
- 9月10日(水) 曾根裕歓迎会
- 9月26日(金) 例会／アートふる部会(木町アトリエ)
- 10月4日(土) アートふる山口への参加(~5日(日))
YICAアート・ワークショップ“ひかるくうきゆるる”
会場:多目的広場
- 10月24日(金) 第2回役員会／例会(木町アトリエ)
- 11月1日(土) 山口情報芸術センター開館
ラファエル・ロサノ=ヘメル アモーダル・サスペンション(~24日(日))
- 11月2日(日) 中森あかね歓迎会
- 11月18日(火) Beautiful Artist展—原井輝明(浜田アトリエ, ~23日(日))
- 11月21日(木) 例会(木町アトリエ)
ゲスト:中村智道, 真部剛一
- 12月3日(水) 第1回パトリック・ゲディス部会(木町アトリエ)
- 12月26日(金) 例会(木町アトリエ)
ゲスト:安藤聡彦(埼玉大学助教授・ゲディス研究者)
- 1月23日(金) アラン・ジョンストン歓迎会
- 1月24日(土) レクチャー(木町アトリエ) 講師:アラン・ジョンストン
- 1月28日(木) 第2回パトリック・ゲディス部会(木町アトリエ)
- 2月27日(金) 例会／エジンバラ・山口2004部会(木町アトリエ)
- 3月25日(木) Beautiful Artist展—興野理(興野邸, ~28日(日))
- 3月26日(金) 例会／エジンバラ・山口2004部会(木町アトリエ)
- 3月28日(日) 中森あかね一行歓迎会
- 3月31日(水) 第3回役員会(シマダステッド)



前年度に続き、巡回型展覧会「Beautiful Artist」展がYICAメンバーの藤木律子、原井輝明、興野理らの自宅やアトリエで行われました。

秋にはアートふる山口に参加し、ペットボトルを使った工作を通してリサイクルや環境問題を考えるワークショップ「ひかるくうきゆるる」を開催しました。

11月にはYICAメンバーも関わってきた、山口情報芸術センターがオープンし、開館記念事業としてラファエル・ロサノ=ヘメルによるインスタレーションなどが展示されました。

そして冬には、YICAは「エジンバラ・山口2004」の開催に向けて「パトリック・ゲディス部会」を立ち上げ、スコットランドのパトリック・ゲディスの思想をベースに、両市の文化交流、そして山口の大学、街づくり、芸術活動の活性化を目的としたイベント実施について検討を始めました。

ゲディスの研究者である安藤聡彦氏(埼玉大学)やアラン・ジョンストン(エディンバラ・カレッジ・オブ・アート)を迎え、2004年開催に向けた意見交換を行いました。並行して山口大学では、10月から1月にかけて「芸術・文化振興NPO活動の今—エジンバラ・山口2004—」と題した授業が設けられ、安藤氏やアラン・ジョンストンによる講義も行われました。

2月には「エジンバラ・山口2004」実行委員会を設置し、実質的な作業を開始しました。

(白川美幸)

エジンバラ・山口2004

主な行事

- 5月15日(土) 三上晴子+市川創太gravicells(山口情報芸術センター, ~6月20日(日))
- 5月22日(土) 釜山ビエンナーレ(釜山市立美術館ほか, ~10月31日(日))
※ノーヴァヤ・リューストラ
- 5月29日(土) **第1回役員会/通常総会/例会/エジンバラ・山口2004部会(木町アトリエ)**
- 6月20日(日) meet the artist 2004 佐藤時啓(山口情報芸術センター, ~2005年3月13日(日))
※市民企画プロジェクト
- 6月25日(金) 例会/エジンバラ・山口2004部会(木町アトリエ)
- 7月23日(金) 例会/エジンバラ・山口2004部会(木町アトリエ)
ゲスト:中島洋和
—木町アトリエの今後の方針について意見交換
- 7月24日(土) AIAV+YCAM: 発条ト Runnin'ChorDrive(山口情報芸術センター)
- 8月20日(金) 釜山ビエンナーレ2004現代美術展オープニング
YICA釜山ツアー
- 8月27日(金) 例会/エジンバラ・山口2004部会(木町アトリエ)
- 9月25日(土) 例会/エジンバラ・山口2004部会(木町アトリエ)
ゲスト:ピア・ローニケ, シノハラ楽, 渡辺郷
- 10月1日(金) **エジンバラ・山口2004**
(山口大学学生会館/山口情報芸術センター スタジオC/中央公園, ~3日(日))
- 10月29日(金) **第2回役員会/例会(木町アトリエ)**
ゲスト:ヨンハ・チャン, マーク・ボージュ
- 11月26日(金) 例会(木町アトリエ)
- 1月8日(土) クワクボリョウタ RV(山口情報芸術センター, ~2月21日(月・祝))
- 1月12日(水) 蔚山×山口 日韓交流現代美術展(第4回やまぐち学フォーラム)
(C・S赤れんが, 菜香亭, ~19日(水))
- 1月13日(木) シンポジウム「地方都市とアート/文化」
ゲスト:武藤勇(N-mark)(C・S赤れんが)
- 1月15日(金) 例会(木町アトリエ)
- 2月25日(金) 例会(木町アトリエ)
- 4月1日(金) **第3回役員会/例会(木町アトリエ)**



「エジンバラ・山口2004」は、パトリック・ゲディス生誕150年を記念する事業でした。その準備は、YICAでのエジンバラ・山口2004部会と山口大学共通教育での授業「エジンバラ・山口」Part2で並行して進められました。大学と地域の連携もゲディスの思想の重要なモチーフです。Part2というのは、2003年度後期の授業がいわゆるPart1、2004年度前期の授業がPart2という位置づけで、人文学部の奥津聖教授を授業代表、教育学部の貞方昇教授をマネージャーとして、人文学部、教育学部などの1,2年生が、地域におけるNPOの役割、山口の自然、スコットランドの歴史、現代アートの動向などについて学びました。特に、白川美幸さん、中野良寿先生を中心としたチームは、夏休みの期間、学生会館のホールを作業場として、エジンバラのアウトルック・タワーの最上階にあるカメラオブスクラを山口に再現すべく、建築作業に勤めました(会期中、中央公園に設置)。

また、「エジンバラ・山口2004」が開催された3日間のうち、2日(土)と3日(日)は、第1回「まち」=「大学」全国サミットも開催され、全国の自治体・大学関係者が山口市に集り、山口大学、山口県立大学、山口芸術短期大学の3会場で分科会が開かれました。「エジンバラ・山口2004」は、この全国サミットの思想部分を担っていました。

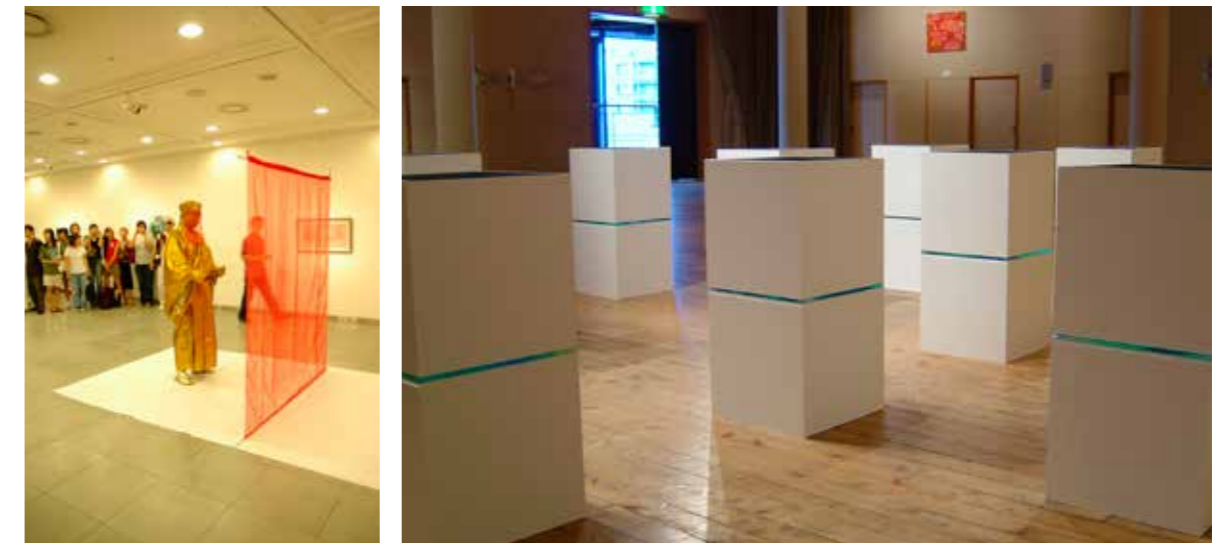
また1月には韓国の蔚山大学芸術学科の教官、学生が来山して蔚山×山口 日韓交流現代美術展(第4回やまぐち学フォーラム)がC・S赤れんがと菜香亭で行われました。主催は山口大学教育学部やまぐち学でしたが、YICAの会員も出品作家として多数参加しました。交流展では「地方都市とアート/文化」と題したシンポジウムも行われ、名古屋のアーティスト・ラン・スペースN-markについて武藤勇氏に紹介していただきました。韓国と日本のアートシーンの違いについても活発に議論され、次年度は蔚山で交流展を行うことになりました。

(藤川哲)

多彩なゲスト・アーティスト
蔚山×山口日韓交流現代美術展への参加

主な行事

- 4月20日(水) trans_2005-2006(秋吉台国際芸術村, ~7月5日(火))
滞在作家: エリン・ギー(アメリカ), 富田俊明(日本), ジュヨン・パク(韓国)
フィリップ・サタルスキー(ポーランド)
- 5月12日(木) 講演会—サイバネティック・セレンディピティ展再考
ブレント・マクレガー(スコットランド国立図書館館長)
会場: 山口情報芸術センター・スタジオC
- 5月20日(金) 第1回役員会/通常総会(木町アトリエ)
- 6月12日(日) ヴェネツィア・ビエンナーレ第51回国際美術展「アートの経験/いつも少しだけ先へ」
(~11月6日(日))
- 6月24日(金) 例会(木町アトリエ)
- 7月22日(金) 例会(木町アトリエ)
ゲスト: オットーさん(ロンドン, ナショナル・ギャラリー館長の子息)
- 8月26日(金) 例会(木町アトリエ)
ゲスト: 嶺村歩(Are You Meaning Company)
- 9月12日(月) 蔚山×山口 日韓交流現代美術展
(ヒュンダイアートギャラリー, 蔚山, ~9月20日(火))
レクチャー: あいだだいや, パフォーマンス: 松尾宗慶
- 9月28日(水) 横浜トリエンナーレ2005(~12月18日(日))
- 9月30日(金) 例会(木町アトリエ)
—蔚山×山口 日韓交流現代美術展の報告
報告者: 中野良寿
ゲスト: 奥津綾幻, ライアン・シーガン・スミス(共にエディンバラ美術大学在学)
奥津綾幻+ライアン・シーガン・スミス2人展(木町アトリエ)
- 10月8日(土) trans_2005-2006 トランスフォーマー(秋吉台国際芸術村, ~11月3日(木・祝))
- 11月5日(土) 第2回役員会/例会(木町アトリエ)
—ゲスト・レクチャー1 (Roger Ackling)
—ゲスト・レクチャー2 (Tom Clark)
—国際地学学会展報告(中野良寿)
ゲスト: ロジャー・アックリング, トム・クラーク, アンカ・モンテアヌ・リムニック
- 11月12日(土) 例会(木町アトリエ)
トーマス・シュトゥールト歓迎会
- 12月17日(土) カールステン・ニコライ syn chron
(山口情報芸術センター, ~2006年2月19日(日))
- 1月14日(土) 例会(木町アトリエ)
- 3月4日(土) 例会(木町ハウス) ※名称変更
- 3月25日(土) 第3回役員会/例会(木町ハウス)



2004年から2006年にかけて、「エジンバラ・山口2004」の開催と報告書作成等に注力して、その間の「アートふる山口」への参加を見送りました。特に2005年度は「エジンバラ・山口2004」の報告書作成のため、多数の会員が執筆や編集に携わり他の活動は見合わせました。「蔚山×山口 日韓交流現代美術展」にはYICA会員より、中野良寿、安原雅之、白川美幸、藤木律子、松尾宗慶が参加しました。会員の動向として、アーティストはそれぞれ自身の制作活動を活発に行い、大学関係者は論文執筆などに力を注いでいました。

(藤木律子)

今後の方向性をめぐる議論

主な行事

- 4月29日(土) 4月例会 (KIMACHI HOUSE) ※表記変更
 —オラ・ピアソンとそのご家族の追悼
 —メアリー・ハリソンの追悼
 ゲスト: 服部浩之(秋吉台国際芸術村)
 岡和田直人(尾道)
 野上裕之(尾道)
 藤阪新吾・向井佐弥子夫妻(神戸)
 ローガン・シスレー(エディンバラ)
 トレイシー・マッケンナ(エディンバラ)
 堀内奈穂子(エディンバラ)
- 5月25日(日) 第1回役員会／通常総会／5月例会 (KIMACHI HOUSE)
- 6月19日(月) ポール＝アンドレ・フォルティエ 30×30(山口市道場前, ~7月18日(火))
- 7月1日(土) 6月例会 (KIMACHI HOUSE)
- 7月23日(日) ポール＝アンドレ・フォルティエ 1x60(山口情報芸術センター)
- 8月5日(土) IACP講演会「アート・福祉・コミュニケーションを考える」(山口県立美術館 講座室) ※共催
 講師: 片山弘基氏(山口県立大学名誉教授・山口育児院院長・哲学者)
 服部 正氏(兵庫県立美術館学芸員)
 田野智子氏(ハート・アート・おかやま事務局長)
- 7月例会 (KIMACHI HOUSE)
 —アートリンク・プロジェクトの方々との懇親会
 ゲスト: 田野智子, 真部剛一, 湯月洋志, 清水直人
- 8月27日(日) 8月例会 (KIMACHI HOUSE)
 ゲスト: 富田俊明
- 9月21日(木) エディンバラからのゲストの歓迎会 (KIMACHI HOUSE)
 ゲスト: アラン・ジョンストン, マード・マクドナルド, ローガン・シスレー
- 11月1日(水) AIAVフェロウシップ2006 クレメンティン・デリス Future Academy
- 11月3日(金・祝) 国民文化祭・やまぐち2006(~12日(日))
- 11月11日(土) 第2回役員会／10月例会 (KIMACHI HOUSE)
 ゲスト: リンゼイ・ゴードン
- 12月5日(火) 11月例会 (KIMACHI HOUSE)
 ゲスト: 関屋敏隆
- 1月10日(水) trans_2006-2007(秋吉台国際芸術村, ~3月20日(火))
 滞在作家: ヘイニ・ヌカリ(フィンランド), ロイック・ストウラーニ(イタリア)
 マリナ・フラウガ(ブラジル)
- 2月11日(日) 1月例会 (KIMACHI HOUSE)
- 3月9日(金) 3月例会 (KIMACHI HOUSE)
 —中村智道さんの映像作品「ほくのまち」鑑賞
 ゲスト: 中村智道



記録を見る限り、2006年度はアクティブな対外的な活動は行われていません。ですが、例会では、常に「これからのYICAの方向性」について話し合われていました。この議論は大変興味深いもので、地方都市におけるNPOの役割と可能性について、また、私たちは何を目指し、何を実現していくのか、という白熱した話し合いでした。

会員数の伸び悩み、運営資金の不安、助成金申請が採択されない事態など、課題は山積みでした。会員数の伸び悩みに限らず、現会員の高齢化も活発な活動基盤へ大きく影響していた時期でした。しかしながら、会員や例会のゲストによるプレゼンテーション、海外からの訪問を受けて親交を深め、互いに刺激を授受するという活動は盛んでした。

上記以外の動向として、秋吉台国際芸術村でのクレメンティン・デリス博士によるFuture Academyと連動した山口大学の共通教育総合科目「実践的現代芸術・文化論—Future Academyについて—」に、多くのYICAメンバーが参加しました。また、会員によるAIR会議への参加、海外視察、展覧会出品等も活発でした。

(藤木律子)

フューチャー・アカデミー
広報出版部会

主な行事

- 4月3日(火) 「フューチャー・アカデミー in 山口」への協力(～8日(日))
会場:秋吉台国際芸術村
- 4月27日(金) 第1回役員会/4月例会(KIMACHI HOUSE)
- 5月25日(金) 第2回役員会/通常総会/5月例会(KIMACHI HOUSE)
- 6月2日(土) 山口大学人文学部異文化交流研究施設第15回講演会
—現代に於ける芸術の本質的意義
講師:今道友信
会場:山口情報芸術センター スタジオC ※YICA後援
- 6月10日(日) ヴェネツィア・ビエンナーレ第52回国際美術展
「感覚で考え、心で感じる—現在形の美術」(～11月21日(水))
- 6月16日(土) ドクメンタ12(カッセル, ～9月23日(日))
- 6月22日(金) 6月例会(KIMACHI HOUSE)
- 7月27日(金) 7月例会(KIMACHI HOUSE)
作品紹介:奥津綾幻
ゲスト:山城大督
- 9月4日(火) 9月例会(KIMACHI HOUSE)
作品紹介:山城大督
—ダンス白州2007報告
報告者:奥津綾幻
ゲスト:マリオ・A・カーロ
- 9月25日(火) アートイン木町プロジェクト「つなぐ」
(KIMACHI HOUSE, ～10月9日(火))
レジデンス・アーティスト:中崎透
会場:KIMACHI HOUSE, 豎小路, 一の坂川エリア, ほか
- 10月6日(土) アートふる山口への参加(～7日(日))
ワークショップ—看板屋なかざき
会場:KIMACHI HOUSE, 豎小路, 一の坂川エリア
YICA会員による展覧会
会場:KIMACHI HOUSE, 大殿公民館2F和室
- 10月7日(日) 10月例会(KIMACHI HOUSE, ～8日(月・祝))
—滞在制作報告会 報告者:中崎透
- 11月2日(金) 11月例会(KIMACHI HOUSE)
- 11月11日(日) 広報出版部会(KIMACHI HOUSE)
- 12月18日(火) 広報出版部会(奥津会長宅)
—アラン・ジョンストン, スーザン夫妻歓迎会 ※20日(木)まで滞在



- 1月10日(木) trans_2007-2008(秋吉台国際芸術村, ～3月20日(木・祝))
滞在作家:ジャスティン・フィスケ(南アフリカ), シンイル・キム(韓国)
ニカ・オブロク&プリモス・ノヴァック(旧ユーゴスラビア)
- 2月11日(月) 第2回アートイン木町プロジェクト「つなぐ」(～2月24日(日))
レジデンス・アーティスト:范叔如
会場:KIMACHI HOUSE, ほか
広報出版部会/例会(山口情報芸術センター 多目的室)
作品紹介&レクチャー:范叔如
- 2月16日(土) 講演会—1989年以降の中国現代美術
講師:奥津聖, 范叔如
会場:山口情報芸術センター スタジオC
- 2月18日(月) 中間報告会(KIMACHI HOUSE)
- 2月21日(木) 范叔如展覧会—白風景(KIMACHI HOUSE, ～24日(日))
オープニングパーティ
- 3月4日(火) 広報出版部会(奥津会長宅)
- 3月23日(日) 役員会/例会(KIMACHI HOUSE)



2007年度はアーティスト・イン・レジデンスに関する一連の活動が活発に行われました。木町ハウスを拠点に、報告会やプレゼンテーションに多くの人が参加しました。特に中崎さんのワークショップでは、大学で行った事前のプレゼンテーションがうまく学生たちの関心を引きだして、多くの参加がありました。

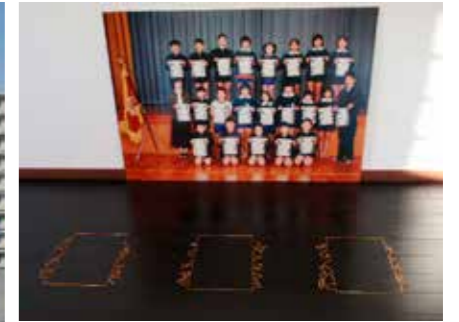
秋吉台国際芸術村との連携もよくとれており、「フューチャー・アカデミー in 山口」ではYICAの会員中野良寿氏がラボメンバーに加わりました。面白い遊びワークショップでは藤木律子が「投扇興」と「遺伝子WS」で協力しました。

当時は、広報に力を入れることで会員増を目指していた時期で、広報出版部会を頻繁に開催しています。また、これまでの事業実績を出版物として販売し、法人の収益増の可能性も探っていました。

(藤木律子)

主な行事

- 5月14日(水) 秋吉台国際芸術村開村10周年記念事業
trails_小径レジデンス・フェロー第1弾 チャールズ・リム
(～6月12日(木))
- 5月31日(土) 第1回役員会 / 第10期総会 / 5月例会(木町ハウス)
- 6月28日(土) 6月例会(木町ハウス)
作品紹介:ウォン・ハ
- 7月5日(土) 大友良英 ENSEMBLES (山口情報芸術センター, ～10月13日(月・祝))
- 7月20日(日) 7月例会(木町ハウス)
作品紹介(第1回):有佐祐樹
ーウォン・ハレジデンス事業報告
- 10月3日(金) 10月例会(木町ハウス)
作品紹介:守章
- 10月4日(土) アートイン木町プロジェクト「つなぐ'08」ー守章(木町ハウス, ～5日(日))
青い殿様プロジェクト2008 新瑠璃光伝説ーtransition to allegory-(～5日(日))
- 10月18日(土) 川俣正+コールマイン研究室 / 炭鉱×アート フィールド・トリップ 美祢-宇部(秋吉台国際芸術村)
- 11月22日(土) 11月例会(木町ハウス)
作品紹介(第2回):有佐祐樹
爆笑懇親会ーあなたとわたし“つなぐ”
- 11月29日(土) 有佐祐樹ワークショップ(木町ハウス)
- 12月4日(木) 守章ープロジェクト“Nick”(木町ハウス, 菜香亭, ～8日(月))
- 12月6日(土) 守章とアーサー・ワトソンによるパフォーマンスのタベ
- 1月10日(土) trans_2008-2009(秋吉台国際芸術村, ～3月20日(金・祝))
滞在作家:ジャクラワル・ニルサムロン(タイ)
アマンダ・ジェイ・ヒル(アメリカ), 柳本明子(日本)
- 2月15日(日) 2月例会(木町ハウス)
作品紹介:柳本明子
アマンダ・小・ヒル
ジャクラワル・ニルサムロン(以上、秋吉台国際芸術村滞在)
ーアラン・ジョンストンの提案について



前年度のアートイン木町プロジェクト「つなぐ」(第1回=中崎透、第2回=范淑如)に引き続き、2008年度も「つなぐ'08」として木町ハウスを拠点に、レジデンス事業や報告会、ワークショップなど一連の活動が活発に行われ、多くの市民が参加しました。

まず6月に、韓国の蔚山大学の准教授(当時)のウォン・ハ氏とアシスタントのアルムさんを招き、木町ハウスでの滞在とプレゼンテーションのほか、C・S赤れんがでのビデオを中心としたインスタレーションの展示を行ってもらいました(荘子の詩に着想を得た作品でした)。また、中心商店街のレンタルボックス街知箱(まっちばこ)では、商店街を再解釈する参加型展示を行い、YICAのアーティストも参加しました。10月には守章氏が滞在、プレゼンテーションと作品展示を行いました。また、シマダ株式会社社員のご協力を得て、集合写真をモチーフにした作品制作を行ったほか、県内の各市町村で使われている夕方5時のサイレンや音楽、各地域で異なるゴミ袋を収集し、それらを使ったインスタレーションを制作しました。11月には3人目のアーティスト、有佐祐樹氏のワークショップが行われ、長門市の青海島に伝わる古式捕鯨をテーマにした作品を制作しました。そのほか、守章とアーサー・ワトソンによるパフォーマンスのタベ、秋吉台国際芸術村のtrans_2008-2009参加アーティストであるジャクラワル・ニルサムロン、アマンダ・ジェイ・ヒル、柳本明子によるプレゼンテーション、アラン・ジョンソンによる新たなプロジェクト提案などもありました。

山口市以外でも、YICAメンバーの原井輝明氏を中心となったFCAが、宇部商店でシャッター壁画vol.5を制作するなど、商店街の活性化とアートの関係にも改めて注目が集まった年でした。

(中野良寿)

山口盆地午前五時

主な行事

- | | |
|-----------|---|
| 4月24日(金) | 4月例会(木町ハウス) |
| 5月7日(木) | 第1回実行委員会(YICA事務局) |
| 5月23日(土) | 総会/5月例会(木町ハウス) |
| 6月6日(土) | 第2回実行委員会(YICA事務局) |
| 6月7日(日) | ヴェネツィア・ビエンナーレ第53回国際美術展「世界を構築する」(~11月22日(日)) |
| 7月4日(土) | 第1回山口盆地、午前五時—レクチャー・マラソン
—地図・絵図を通して見た山口盆地
講師:貞方昇 |
| | 第2回山口盆地、午前五時—レクチャー・マラソン
—デジタル・ランドスケープ
講師:クリス・スピード
通訳:原田真千子
会場:木町ハウス |
| 7月23日(木) | 第3回実行委員会(YICA事務局) |
| 8月22日(土) | 第3回山口盆地、午前五時—レクチャー・マラソン
—海外調査報告—ヴェネツィア・ビエンナーレ第53回国際美術展
講師:藤川哲 |
| | 第4回山口盆地、午前五時—レクチャー・マラソン
—パトリック・ゲディスのヴァレー・セクションと山口盆地
講師:奥津聖 会場:木町ハウス |
| 8月23日(日) | 第4回実行委員会(YICA事務局) |
| 9月13日(日) | ビヨンド・ザ・ウォール vol.1 アンダー・ザ・ラビットホール
(秋吉台国際芸術村, ~30日(水)) ※ノーヴァヤ・リューストラ |
| 9月27日(日) | 第5回実行委員会(YICA事務局) |
| 10月5日(月) | 第6回実行委員会(YICA事務局) |
| 10月8日(木) | アートイン木町プロジェクト「つなぐ」'09 山口盆地午前五時(~12日(月))
会場:菜香亭, 木町ハウス, 山口大学教育学部改修工事壁面
アーティスト・トーク
会場:菜香亭, 木町ハウス |
| 10月11日(日) | アートイン木町プロジェクト「つなぐ」'09 山口盆地午前五時
スタジオマイチ・パフォーマンス
会場:菜香亭中庭 |
| 10月18日(日) | ビヨンド・ザ・ウォール vol.2 オールウェイズ・ピカミング
(秋吉台国際芸術村, ~11月3日(火・祝)) |
| 11月20日(金) | 第5回山口盆地、午前五時—レクチャー・マラソン
—雪舟が眺めた山口
講師:菊屋吉生 |



第6回山口盆地、午前五時—レクチャー・マラソン
—新しい高さ/新しいチャンス
講師:ソロデュール・ビャルナソン(アイスランド, 秋吉台国際芸術村滞在)
通訳:中野良寿
会場:木町ハウス

- | | |
|-----------|---|
| 11月29日(日) | ビヨンド・ザ・ウォール vol.3 新しい高さ、新しいチャンス
(秋吉台国際芸術村, ~12月25日(金)) |
| 1月10日(日) | trans_2009-2010(秋吉台国際芸術村, ~3月20日(土))
滞在作家:クレア・ヒーリー&ショーン・コーデイロ(オーストラリア)
ヴァレリア・ロクサナ・プリモスト(アルゼンチン), 椎名勇仁(日本) |



「アートイン木町プロジェクト「つなぐ」'09 山口盆地午前五時」は、2007年から3年間継続して開催してきたレジデンス・プロジェクトの集大成として開催された展覧会でした。20名を超える地元で活動するアーティストや過去のYICAプロジェクトに参加したアーティストに加え、3名のゲストとなるレジデンス・アーティストが参加しました。

副題の「山口盆地午前五時」は、今まさに「夜明け」を迎えようとしている山口のありようを表しています。YICAは、1995年以來、スコットランドの古都エディンバラの人々と共同でさまざまな企画を展開してきました。「山口盆地午前五時」は、エディンバラからの提案である“Yamaguchi Valley Section”に込める副題であり、YICAの活動の新展開の端緒を開くものです。ヴァレー・セクションは、パトリック・ゲディスの用語で、渓谷(=ヴァレー)だけでなく、ある河川の源流から平野部を通って海へと至る河川流域の全体を指します。山口に当てはめれば樺野川流域の全体を指すことになり、それはそっくりそのまま新山口市の版図と重なりあっています。アーティストたちは真正面から、あるいは全く自由な視点で、「山口盆地午前五時」を巡る問題に取り組みました。

また、この年YICAでは様々な切り口を持った講師による「山口盆地、午前五時—レクチャー・マラソン—」を6回に渡り行い、「山口盆地午前五時」についての理解を深めました。そしてこの活動が次年度以降の「山口盆地考」につながって行きました。

(澤登恭子)

YICA+AIS 「日本におけるコンセプチュアルアートの展開」 3.11東日本大震災

主な行事

- 5月22日(土) 役員会/総会/5月例会(木町ハウス)
- 6月7日(月) 6月例会(木町ハウス)
作品紹介:ジョン・ステュアート=マッレー
- 7月17日(土) 7月例会(木町ハウス)
作品紹介:ロス・マックレーン, マーク・アイシャイト, ダニー・デファツィオ, ステファニア・ストラウサ
- 10月10日(日) 10月例会(木町ハウス)
—カナダ報告 Wood Heaven (森の話)
報告者:中野良寿
作品紹介:ヘイニ・ヌカリ
- 10月17日(日) 日本におけるコンセプチュアルアートの展開
講演会, シンポジウム, 作品展示
SECTION-1 嶋田日出夫 (YICA監事)
SECTION-2 福田篤夫 (CONCEPT SPACE主宰)
〈AISアートインスティテュート渋谷〉
森田達行, 川松康徳, 横田尚, 高橋礼花, 野村禮光
会場:山口情報芸術センター スタジオC, ほか
- 10月31日(日) やまぐち街なか大学
「山口盆地」考—パトリック・ゲディスの思想に依拠して(第1回)
講師:奥津聖
会場:山口情報芸術センター 多目的室
- 11月3日(水・祝) NEO-TOPIA ネオトピア(秋吉台国際芸術村, ~21日(日))
※ノーヴァヤ・リューストラ
- 1月11日(火) trans_2010-2011(秋吉台国際芸術村, ~3月21日(月・祝))
滞在作家:ヴォイチェフ・ギレビツ(ポーランド)
アドリアナ・サラザール(コロンビア)
山田健二(日本)
- 1月15日(土) やまぐち街なか大学
「山口盆地」考—パトリック・ゲディスの思想に依拠して(第2回)
講師:奥津聖
会場:山口情報芸術センター 多目的室

1月例会(木町ハウス)
作品紹介:ヴォイチェフ・ギレビツ, アドリアナ・サラザール
山田健二(以上, 秋吉台国際芸術村滞在)
- 2月20日(日) 2月例会(木町ハウス)
作品紹介:ヤズマニー・アルボレダ
ティファニー・チュン(以上, 秋吉台国際芸術村滞在)



- 2月26日(土) やまぐち街なか大学
「山口盆地」考—パトリック・ゲディスの思想に依拠して(第3回)
講師:奥津聖
会場:山口情報芸術センター 多目的室 ※大雪で中止
- 3月11日(金) 東日本大震災
- 3月26日(土) やまぐち街なか大学
「山口盆地」考—パトリック・ゲディスの思想に依拠して(最終回)
講師:奥津聖
会場:山口情報芸術センター 多目的室



2010年度は、年明け3月に東日本大震災が起こり、福島第一原発メルトダウンの放射能漏れ事故により、日本全体が壊滅するかもしれない恐怖を味わった年でした。

YICAの活動としては、やまぐち街なか大学「『山口盆地』考」に先立って、中野良寿による「カナダ報告 Wood Heaven(森の話)」や、ヘイニ・ヌカリ(フィンランド)によるアーティストトークなどが開催されたことが特筆されます。また、「日本におけるコンセプチュアルアートの展開」では、群馬県渋川市でコンセプトスペースを主宰する福田篤夫氏と、彼が率いるAIS(アートインスティテュート渋谷)の作家たちによる展示とプレゼンテーションが行われました。

YICAは、日本におけるコンセプチュアル・アートの普及に早くから貢献してきた民間団体であり、コンセプトスペースやAISもまた、同様の活動を展開してきた民間団体であることから、この企画は、互いの活動に焦点を当て、群馬と山口という、点と点を結ぶような試みであり、改めてコンセプチュアルアートの意味を再考する機会となりました。

また11月には、秋吉台国際芸術村で、アートによる「場」の再生実験プロジェクト「NEO-TOPIA」が開催されましたが、この展覧会には前年度「山口盆地午前五時」に参加した狩野哲郎とノーヴァヤ・リューストラが参加しています。図らずも、このネオ・トピアという言葉が予感した通り、日本という場(トピア)は、東日本大震災以後、新たな局面に突入した、と言えます。

(中野良寿)

主な行事

- 4月29日(金・祝) 例会
—Skypeとチャットを用いた国際的なネット会議を試行
Skype参加:原田真知子, 安原雅之
- 5月28日(土) 第1回役員会/総会/例会(木町ハウス) ※Ustream配信試行
Skype参加:原田真知子, 安原雅之
- 6月4日(土) ヴェネツィア・ビエンナーレ第54回国際美術展「照明/国家群 ILLMinations」(~11月27日(日))
- 8月20日(土) SATELLITE dabada—YAMAGUCHI dabada+山口盆地考—
(山口大学通り沿い・榎野川河川敷)
- 10月8日(土) 例会(木町ハウス)
—スコットランド, オークニー島報告
報告者:中野良寿
- 10月10日(月・祝) UBEビエンナーレ まちなかアート・フェスタへの参加(~11月13日(日)) ※会員単位
- 10月29日(土) 例会(木町ハウス)
- 11月26日(土) やまぐち街なか大学
「山口盆地考」研究会(第1回)
会場:木町ハウス
- 1月12日(木) trans_2011-2012(秋吉台国際芸術村, ~3月22日(木))
滞在作家:レヘマ・チャチャゲ(タンザニア)
アンナ・ストランド(スウェーデン)
津田道子(日本)
- 1月21日(土) 例会(木町ハウス)
やまぐち街なか大学
「山口盆地考」研究会(第2回)
会場:木町ハウス
- 2月24日(金) 展覧会—山口盆地考—^{うるう}閨—(木町ハウス, ~3月4日(日))
- 2月25日(土) 山口盆地考—^{うるう}閨—
特別講演, シンポジウム
講師:水津功(愛知県立芸術大学准教授)
林郁正(あいちトリエンナーレ2010アシスタントキュレーター)
会場:菜香亭
- 3月11日(日) 3月11日(日)3.11特別例会 ※黙祷1分間
- 3月24日(土) 3月24日(土)第2回役員会(木町ハウス)



2011年は日本全体が未曾有の自然災害と、原発事故という人災への対応に右往左往した年でした。マグニチュード9.0の地震と津波被害、福島第一原発の放射能流出事故からの復興に明け暮れました。

YICAも環境とアートの関係について改めて考える必要に迫られます。当時、刻々と変化する被災状況や放射能被害の影響については、様々な情報が飛び交い、被災地から離れた山口という地理的位置からも、正確な情報の収集が大きな課題でした。マスコミの情報はフィルターを通したものであり、不都合な情報が隠蔽されているのではないかという疑念も持たれました。インターネットは、早急かつさまざまな要求に対応できる情報収集ツールとして有用である反面、検証不十分な情報やフェイクニュースも混入しており、メディア・リテラシーの大切さについても考えさせられました。こうした状況を踏まえて、YICAでは日本や世界各地にいる人たちとの繋がりをしっかりと維持し、多様な立場から率直な意見交換を行うことが最も大切であると考え、例会にSkypeを導入して、福島に実家がある安原雅之氏に状況報告してもらおう機会も設けました。

「山口盆地考—うるう閨—」では、ランドスケープ・デザイナーの水津功氏とあいちトリエンナーレ2010のアシスタントキュレーター、林郁正氏を迎え、特別講演とシンポジウムを行いました。「山口盆地考」が、環境とアート、文明、生活、自然などを考える大切なテーマとして改めて認識され、引き続き山口からどのようなことができるのか、という問いが、次年度へと引き継がれました。

(中野良寿)

環境レクチャーシリーズ

主な行事

- 4月21日(土) 第1回役員会/例会(木町ハウス)
—形態学と神話学との間のスコットランド
講師:ロス・マックレーン(エディンバラ大学教授)
—直島・豊島探訪報告
報告者:中野良寿
包装開封旅行展/ロバート・パウエル展(木町ハウス, ~22日(日))
- 4月28日(土) 山口盆地考 Low Lives展
※木町ハウスでのイベントのライブ中継とYoutubeへのアップロード
アートドキュメント イン ヤマグチ
会場:木町ハウス, 瑠璃光寺五重塔周辺
- 5月19日(土) 第2回役員会/総会/例会(木町ハウス)
- 6月2日(日) やまぐち街なか大学(第1回)/第1回講演会のための研究会
会場:山口情報芸術センター 多目的室
- 6月6日(水) やまぐち街なか大学(第2回)
山口盆地考2012 環境レクチャーシリーズ@YCAM
第1回講演会—未来を創るエネルギー 講師:田中優
会場:山口情報芸術センター スタジオC
滞在制作:鳥光桃代(ニューヨーク在住)(木町ハウス, 40日間)
- 6月9日(土) ドクメンタ(13) (カッセル, ~9月16日(日))
- 6月23日(土) 例会(木町ハウス)
- 7月7日(土) やまぐち街なか大学(第3回)/第2回講演会のための研究会
会場:山口情報芸術センター 多目的室
- 7月12日(木) やまぐち街なか大学(第4回)
山口盆地考2012 環境レクチャーシリーズ@YCAM
第2回講演会—ヨーロッパ, エネルギー自立のまちづくり
講師:滝川薫
会場:山口情報芸術センター スタジオC
- 8月19日(日) プロメテウスの来たりし処(ヒストリア宇部, ~26日(日))
- 8月24日(金) 例会(木町ハウス)
- 9月9日(日) 例会(木町ハウス) —Architales展について
発表者:蔵田章子(Do a front), 笹原晃平
- 9月29日(土) やまぐち街なか大学(第5回)
第1回, 第2回講演会の振り返り
会場:山口情報芸術センター 多目的室
關渡雙年展(国立台湾藝術大学 關渡美術館, ~12月16日(日))
- 10月21日(日) 緊急例会 —帰朝報告
報告者:原田真千子, マリオ・A・カーロ



- 12月2日(土) やまぐち街なか大学(第6回)/第3回講演会のための研究会
会場:山口情報芸術センター 多目的室
- 12月1日(土) 村山修二郎—緑画
滞在制作・アトリエ公開(木町ハウス, ~12月9日(日))
- 12月6日(木) やまぐち街なか大学(第7回)
山口盆地考2012 環境レクチャーシリーズ@YCAM
第3回講演会・シンポジウム エウトピア
—新しい循環型社会への展望
パネラー:安溪遊地, 氏本長一, 奥津聖
司会:中野良寿/議長:嶋田日出夫
—滞在作家紹介:村山修二郎
会場:山口情報芸術センター スタジオC
- 12月9日(日) 村山修二郎—緑画(木町ハウス, ~12月15日(日)) ※28日(金)まで会期延長(要予約)
- 12月22日(土) NOVAIA LIUSTRA—CURTAIN(N-Mark, 名古屋, ~12月29日(土))
- 1月11日(金) 例会(木町ハウス)
- 1月22日(火) trans_2012-2013(秋吉台国際芸術村, ~3月12日(火))
滞在家:安西剛(日本), フランス・デュボワ(ベルギー)
イナ・クウォン&ヘルムート・フェルター(ドイツ), 志村信裕(日本)
ユン・タ・チャン(台湾), アルウィン・レアミーリョ(フィリピン)
トッド・シャロム(アメリカ), ヒュック・ジュン・イ(韓国)
- 2月23日(土) やまぐち街なか大学(第8回)/第4回講演会のための研究会
会場:山口情報芸術センター 多目的室
- 2月28日(木) やまぐち街なか大学(第9回)/山口盆地考2012 環境レクチャーシリーズ@YCAM
第4回講演会・シンポジウム 環境とアート
—ロバート・スミッソンと<環境>
講師:西翼
司会・議長:嶋田日出夫
パネラー:阿部一直, 斉藤郁夫, 鈴木啓二郎
中野良寿, 西翼, 藤川哲
会場:山口情報芸術センター スタジオC



フクシマの翌年で、山口でも翌2013年のYCAM10周年に向けて坂本龍一さんが総合ディレクターに就任したり、県知事選に飯田哲也さんが立候補したりと、環境問題を強く意識した動きがあった年でした。YICAは環境レクチャーシリーズをスタートし、YCAMのスタジオCで講演会やシンポジウムを4回開催しました。

(嶋田啓子)

2011年からYICA正会員となった鈴木啓二郎が運営するthe temporary spaceの持ち込み企画 Low Lives 4 (主催:Jorge Rojas)の共催が木町ハウスで実現し、松尾宗慶氏の青い殿様によるパフォーマンスがインターネットを通じて世界中に配信され、数10カ国の会場を結ぶ同時中継を介して鑑賞する事ができました。また、ヒストリア宇部で開催された企画展「プロメテウスの来たりし処」にYICAメンバーが参加したり、中野良寿氏と安原雅之氏のユニット、ノーヴァヤ・リューストラ設立10周年を記念する企画展が名古屋で開催されるなど、山口市以外での活動も比較的に目立った1年でした。

(鈴木啓二郎)

YCAM10周年との連携

主な行事

- 4月5日(金) 4月例会(木町ハウス)
- 4月6日(土) 角島ゴミアート展(スタジオイマイチ, ~7日(日))
- 5月28日(火) 特別例会 ゲスト:飯田哲也
- 6月1日(土) ヴェネツィア・ビエンナーレ第55回国際美術展「百科事典的な宮殿」(~11月24日(日))
- 6月29日(土) 木町ハウス草刈り
- 6月30日(日) 村山修二郎「緑画」ワークショップ 会場:山口情報芸術センター 創作学習室
- 7月6日(土) 山口盆地考 2013 エウトピア—理想の庭園 現代美術の植物園(木町ハウス, ~28日(日))
LIFE by MEDIA 山口情報芸術センター[YCAM] 10周年記念祭 第1期(~9月1日(日))
LIFE by MEDIA 国際コンペティション—アートと環境の未来(山口中心商店街, ~9月1日(日))
- 7月13日(土) 山口盆地考 2013 エウトピア—理想の庭園 現代美術の植物園 アーティスト・トーク 会場:木町ハウス
- 7月14日(日) ART IN THE EVENING—夜の現代美術展(木町ハウス, 香山公園, ~15日(月・祝))
- 7月25日(木) 平川渚・公開制作「地面を編む」(スタジオイマイチ, ~31日(水))
- 7月28日(日) 7月例会(木町ハウス)
- 8月21日(水) 山口盆地考 2013 エウトピア—理想の庭園 現代美術の植物園 (~9月29日(日)) ※会期延長(要予約)
- 9月1日(日) やまぐち街なか大学/講演会のための研究会 会場:山口情報芸術センター 創作学習室
- 9月8日(日) やまぐち街なか大学/山口盆地考2013 環境レクチャーシリーズ@菜香亭 ドイツのエネギーシフト—エネギー自立地域の意義について 講師:村上敦 会場:菜香亭 大広間
- 9月15日(日) 9月例会(木町ハウス)
- 10月22日(火) LIFE-WELL 野村萬斎+坂本龍一+高谷史郎 (山口情報芸術センター スタジオA)
- 10月28日(月) 特別例会 作品紹介:デビッド・コーネアン, ロバート・パウエル
- 11月1日(金) LIFE by MEDIA 山口情報芸術センター[YCAM] 10周年記念祭 第2期(~12月1日(日))
- 11月2日(土) それぞれのヴァレー・セクション展(N3 ART Lab, ~12月7日(土))



- 11月10日(日) きむらとしろうじんじん 野点(一の坂)
- 11月22日(金) それぞれのヴァレー・セクション展 トーク 講師:ロス・マクレーン 会場:N3 ART Lab
- 11月24日(日) それぞれのヴァレー・セクション展 打ち合せ(木町ハウス)
- 11月25日(月) アーティスト・トーク@とくいの銀行(山口市) 【存立】について~はじめまして、宮本博史です。~
- 12月14日(土) それぞれのヴァレー・セクション展 シンポジウム 会場:菜香亭
- 1月13日(月・祝) それぞれのヴァレー・セクション展 アーティスト・トーク 会場:木町ハウス
- 1月19日(日) trans_2013-2014(秋吉台国際芸術村, ~3月14日(金)) 滞在作家:アイザック・イマニュエル(アメリカ), ジョセフィーヌ・ヴェジリッチ(フィンランド) 吉開菜央(日本), チョウ・タン・イエン(台湾), ホ・テウオン(韓国) イアン・カルロ・ハウシャン(フィリピン)
- 1月20日(月) 講演会 ペネロペ・カーティス(テート・ブリテン館長) 会場:木町ハウス
- 2月2日(日) フィリップ「ワラビコドウテイク」(N3 ART Lab) ※後援
- 2月23日(日) あーと・ルーム OpenKitchen/Relation~生活の中の食とアート(秋吉台国際芸術村)
- 3月2日(日) 3月例会(木町ハウス) 嶋田日出夫展—ピオハウスへのオマージュ (N3 ART Lab, ~23日(日)) ※後援
- 3月21日(金・祝) 旧メトロ洋裁教室見学会
- 3月22日(土) エピファニー・ガーデン 空き家のあそびかた (Do a front, ~3月30日(日))



2013年の日本のアートシーンは、3.11以後の世界像を模索していたと言えます。第55回ヴェネツィア・ビエンナーレの日本館では、田中巧起氏が東日本大震災をテーマとした作品を発表して注目を浴び、あいちトリエンナーレ2013「揺れる大地」でも、国際社会の「地殻変動」を意識させるプロジェクトが多く見られました。

山口では、坂本龍一氏をアーティストック・ディレクターに迎えて「アートと環境の未来・山口 YCAM10周年記念祭」が開催されました。〈アート〉〈環境〉〈ライフ〉をキーワードに、アートを通して環境の概念を再定義するというコンセプトによるものでした。坂本氏の「FOREST SYMPHONY」は、樹木の生体電位を計測し、集積、解析した後に音楽へ変換するもので、人と自然環境とのインターフェイスの拡張を示唆するもので、パトリック・ゲデイスの思想との相関性を感じました。

YICAは、YCAMやN3 ART Labと連携し、環境レクチャーシリーズやゲデイスの思想をテーマにした展覧会を開催しました。「エウトピア理想の庭園 現代美術の植物園」展では、アートと自然のインタラクティブな関係性、アートと環境との今日的なインターフェイスの可能性を探り、「それぞれのヴァレー・セクション」展では、ゲデイスのヴァレー・セクションをテーマとして、エディンバラと日本のそれぞれの作家が、その土地に根ざしたよりよい「生」とは何かという問いに向き合いました。

(松尾宗慶)

地域資源をアートへ

主な行事

- 4月1日(火) 滞在制作:鈴木啓二郎「名もなき日々の試み...」
(～30日(水)) 会場:木町ハウス, 山口市内, オンライン
- 4月2日(水) 池田亮司 supersymmetry (山口情報芸術センター, ～6月1日(日))
- 4月20日(日) 第1回例会(木町ハウス) 作品紹介:鈴木啓二郎
- 5月10日(土) 役員会/総会/第2回例会(木町ハウス)
- 5月16日(金) 大浮世絵展(山口県立美術館, ～7月13日(日))
- 6月8日(日) やまぐち街なか大学/講演会のための研究会
第3回例会 会場:山口情報芸術センター 創作学習室
- 6月12日(木) やまぐち街なか大学
山口盆地考2014 環境レクチャー・シリーズ@YCAM
—Think global, Act local
講師:ベネ・ミュラー 会場:山口情報芸術センター スタジオC
- 6月28日(土) 第4回例会(木町ハウス)
Mother/Land展(小山市立車屋美術館, ～9月7日(日))
- 7月5日(土) 地域に潜るアジア:参加するオープン・ラボラトリー
(山口情報芸術センター, ～9月28日(日))
- 7月19日(土) 札幌国際芸術祭2014(～9月28日(日))
- 8月1日(金) ヨコハマトリエンナーレ2014(～11月3日(月・祝))
- 8月21日(木) 第5回例会(木町ハウス)
—Mother/Land展(小山市立車屋美術館) 報告者:原田真千子
- 9月1日(月) コレクティヴ:EAS_Y Vol.01 地域と語る:資源 x 探求 x 記録 x 集合
(N3 ART Lab, ～2015年 2月28日(土))
- 9月6日(土) 第5回福岡アジア美術トリエンナーレ2014(福岡アジア美術館, ～11月30日(日))
- 9月27日(土) 第6回例会(山口情報芸術センター 創作学習室)
- 10月18日(土) 「山口盆地_青い影」展ワークショップ(木町ハウス) ※共催
日没より瑠璃光寺五重塔の青いライトアップイベント
- 10月19日(日) 第7回例会(木町ハウス)
—《この世界に生き続ける》ことと《家をもやす》こと—
2014年釜山・光州ビエンナーレ報告
報告者:藤川哲(Ustream配信)
- 10月25日(土) 「山口盆地_青い影」ドローイング展(木町ハウス, ～26日(日)) ※共催
- 11月5日(水) アート de おもてなし展への参加
それぞれのヴァレー・セレクション in 菜香亭(菜香亭, ～9日(日))
- 11月14日(金) コレクティヴ:EAS_Y Vol.01
ゲスト・アーティスト・レクチャー 02
アラン・ジョンストン(N3 ART Lab)



- 11月15日(土) 第8回例会(木町ハウス)
—アラン・ジョンストンを囲むガーデンパーティー
- 12月14日(日) 第9回例会 作品紹介:富田俊明
- 1月7日(水) 第10回例会
パフォーマンスとトークショー:“I Propose That We...”
ロバート・ブルーイット, オータム・ナイト
- 1月16日(金) trans_2014-2015(秋吉台国際芸術村, ～3月11日(水))
滞在作家:ホルヘ・マニェス・ルビオ(スペイン)
ジュリアン・グロスマン(フランス), 大成哲(日本)
リウ・チーホン(台湾), チャ・ヘリム(韓国)
ミンナ・クレイエンルオマ(フィンランド)
- 1月28日(水) コレクティヴ:EAS_Y Vol.01
ゲスト・アーティスト・レクチャー 05
トーマス・シュトゥールト
(山口情報芸術センター スタジオC)
- 2月1日(日) コレクティヴ:EAS_Y Vol.01 成果展(～2月8日(日))
- 2月9日(月) 秋吉台国際芸術村AIR事業15周年記念企画
ワールド・アーティスト展 第1弾(N3 ART Lab, ～15日(日))
- 2月14日(土) 第11回例会 作品紹介:ダニオ・マン
- 2月27日(金) 秋吉台国際芸術村AIR事業15周年記念企画
ワールド・アーティスト展 第2弾
(山口宇部空港, ～3月11日(水))
- 3月15日(日) 秋吉台国際芸術村AIR事業15周年記念企画
ワールド・アーティスト展 第3弾
(ルネッサなごと, ～22日(日))



2014年度の幕開けは、地域の人びとと山羊を巻き込んだ鈴木啓二郎氏の滞在制作「名もなき日々の試み...」でした。私も滞在制作に巻き込まれ、記憶が正しければ、幼稚園以来の鯉のぼり制作を体験しました。最終日は、山口大学の学生も巻き込まれて、一つの空間に沢山の人が集まり、フリーマーケット、カフェ、雑談、大喜利、と様々なことが同時進行する不思議な空間が生まれました。

また、YICA副会長でもある中野良寿氏が代表を務める文化庁の新進芸術家育成事業「コレクティヴ:EAS_Y Vol.01」では、国内外で活躍するアーティスト達がレクチャーを行い、参加作家がそれを元に作品を構想し、山口駅通り沿いの複数の会場を結んで成果展を開催しました。私自身も若手作家として参加し、志村信裕さんやSPURSEのレクチャーを通して、地域資源を吸収し、アートに変換して伝え、感動させ、再発見させる姿に感銘を受けました。沢山のレクチャーを受けていく内に、パトリック・ゲディスのヴァレー・セレクションと山口県出身の民俗学者宮本常一との間に何か通じるものを感じるようになったとともに、山口の地域資源をどのように掘り起こし、作品として表現出来るのか深く悩みました。今後の作家活動に何らかの変化をもたらすであろう重要な気付きを得ることが出来ました。

(小畑徹)

リフレクションズ

主な行事

- 4月15日(水) 「尾張画工再来記」(今八幡宮, ~4月下旬) ※鈴木啓二郎
- 4月25日(土) 篠山紀信展(山口県立美術館, ~6月14日(日))
- 5月9日(土) ヴェネツィア・ビエンナーレ第56回国際美術展
「世界の様々な未来のすべて」(~11月22日(日))
- 5月28日(木) ワークショップ—アートなざぶとんを作ってみよう(第1回)
講師:藤木律子/会場:木町ハウス
役員会/総会(木町ハウス)
- 6月28日(日) 秋吉台国際芸術村レジデンスフェロー:yukaotani(~7月17日(金))
- 7月24日(金) 例会(木町ハウス) 作品紹介:バリー・ウィタカー(アメリカ)
- 7月27日(月) yan10周年記念 佐藤和哉 かなでの旅路 in やまぐち
(山口情報芸術センター スタジオA)
- 8月1日(土) HOPE II 8人の作家 8人の個性(ルネッサながと, ~9日(日))
- 8月22日(土) ヴェネツィア・ビエンナーレ第56回展報告会
報告者:藤川哲/会場:山口情報芸術センター 多目的室
- 9月12日(土) ワークショップ—アートなざぶとんを作ってみよう(第2回)
講師:藤木律子/会場:木町ハウス
- 9月26日(土) 例会(木町ハウス) 作品紹介:ALIMO(山口出身)
- 10月3日(土) 新山口駅南北自由通路開通:パトリック・ブラン《垂直庭園》
- 10月10日(土) 秘められた色彩—ワークショップ(木町ハウス) 講師:松尾宗慶 ※共催
- 10月11日(日) 秘められた色彩—ドローイング展(木町ハウス, ~13日(火))
アーティスト:松尾宗慶 ※共催
- 10月20日(火) FIAC Cinemephere(~25(日))
※鈴木啓二郎《Embodiments of Constellation with Dedication to Spirits without names...》出品
- 11月1日(日) Germination play 空き家の種まき(Do a Front, ~8日(日))
- 11月7日(土) 秋吉台国際芸術村レジデンスフェロー:サラ・オークリンド(~29日(日))
- 11月15日(日) 第16回ジャカルタ・ビエンナーレ 2015(~2016年1月17日(日))
- 11月19日(木) アート de おもてなし展への参加
それぞれのヴァレー・セレクション in 菜香亭2015(菜香亭, ~23日(月・祝))
- 11月28日(土) 例会(木町ハウス) 作品紹介:サラ・オークリンド(スウェーデン)
ムンキョウウォン プロミス・パーク(山口情報芸術センター, ~2016年2月14日(日))
- 12月6日(日) 駅舎アートプロジェクト「Circus」(宇部 東新川, ~20日(日)) FCA主催
- 12月19日(土) ワークショップ—切り紙のシルクスクリーンでつくるファブリック
講師:藤木律子/会場:木町ハウス
例会(木町ハウス) 作品紹介:宮本博史(大阪)
- 1月16日(土) trans_2015-2016(秋吉台国際芸術村, ~3月10日(木))



滞在作家:ドナルド・アバド(フランス)
タマシュ・スベット(ハンガリー), 山田哲平(日本)
インセイン・パク(韓国) クエンリン・サイ(台湾)
マリ・マキオ(フィンランド)

- 1月19日(火) N子ども園プロジェクト(前町シマダ邸):初回打合せ
- 1月23日(土) 山口盆地考2016 リフレクションズ Part 1
(木町ハウス, ~31日(日))アーティスト・トーク
- 1月30日(土) アート・ウォーキング1「一の坂川」(木町ハウス)
- 1月31日(日) ミニ・シンポ(木町ハウス)
パネラー:河野通孝(山口県立美術館学芸課長)
中野良寿(アーティスト), 松野真知(アーティスト)
モデレーター:藤川哲
- 2月6日(土) 山口盆地考2016 リフレクションズ Part 2(木町ハウス, ~7日(日))
アートなざぶとんインスタレーション
作品紹介:インセイン・パク(韓国)
- 2月22日(日) N子ども園プロジェクト(前町シマダ邸):事業費の想定
- 3月1日(火) N子ども園プロジェクト:野田学園視察
- 3月6日(日) トーク・セッション—青少年×アート×地域
パネラー:南浦涼介(山口大学講師), 宮本博史, 大田慶
司会:藤川哲
会場:山口情報芸術センター 多目的室
- 3月12日(土) 展覧会—山口県山口市三和町(~13日(日))
会場:山口隣保館2F和室
滞在制作作家:宮本博史
- アート・ウォーキング2—柳の水(木町ハウス)
- 3月19日(土) 事業検討会(木町ハウス)
- 3月31日(木) 木町ハウス退去



2015年度のYICA主催事業の中で、特に印象に残るのが、展覧会を核とした複合的な企画「リフレクションズ」です。YICAの会員アーティストを始め、交友関係の深い福岡や広島のアーティストたちが参加した現代美術展とアーティスト・トークに加えて、外部の専門家を講師に迎えてのアート・ウォーキングによって地域の環境について深く学び、さらに、山口県立美術館の河野通孝さんをパネラーに迎えてミニ・シンポジウムを開催して、この複合的な企画を振り返りました。事業全体を通して、アートの領域を超えた人々とのつながりや、公立美術館の活動と私たちNPOの活動とを相対化する視点など、さまざまな発見や気づきを得る良い機会となりました。

また、YICA20周年を視野に入れた企画が少しずつ準備され、アーカイブ整備に関するパイロット事業として、大阪を拠点に活動する宮本博史さんによる滞在制作が実現し、特定の地域周辺の歴史を掘り下げる調査手法や独特の展示方法を実際に目にするによって、YICAのアーカイブ整備作業に関する具体的なイメージを掴むことができました。

そして2016年3月末、これまでYICAの活動拠点として、滞在制作、展覧会、レクチャーなどを実施することで、国内外の様々なアートを紹介してきた木町ハウスを、維持管理の難しさや諸事情により退去する日が訪れました。数々の著名アーティストを含む多くのゲストが訪れ、様々な活動の痕跡と思い出が感じられる歴史的な場所でした。退去後は、緊急避難的な措置として、これまで制作されてきたパンフレットや、さまざまな事業の様子を撮影した写真やビデオテープなどの記録資料とともに、事務局機能を嶋田邸の一室へと移転させました。

(鈴木啓二郎)

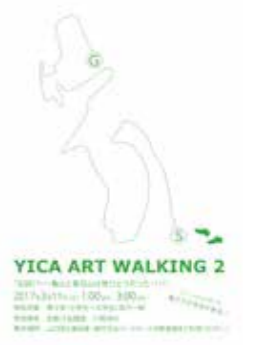
山口アート・アーカイヴ [YAA]

主な行事

- 4月15日(金) N子ども園プロジェクト(前町シマダ邸):設計チームとの打合せ
- 4月21日(木) 4月例会(前町シマダ邸)
- 5月19日(木) 第1回理事会(前町シマダ邸)
- 5月27日(金) 役員会/総会(菜香亭)
ゲスト:マリ・オーモリ(アメリカ在住,アーティスト)
- 6月12日(日) 6月例会(前町シマダ邸)
- 7月9日(土) 7月例会(前町シマダ邸)
- 7月23日(土) やまぐち街なか大学 山口盆地考2016 山口アート・アーカイヴの構築に向けて(第1回)
講師:藤川哲 会場:山口情報芸術センター 多目的室
- 8月18日(木) Outlook:Exploring Geddes in the 21st Century
(PAS, エディンバラ, ~19日(金)) ※奥津聖, 中野良寿, 澤登恭子参加
- 8月25日(木) N子ども園プロジェクト:現場定例会議でのアート説明会
- 8月28日(日) 8月例会(前町シマダ邸)
- 9月1日(木) コレクティヴ:EAS_Y Vol.02 地域と語る:資源 x 探求 x 記録 x 集合
(N3 ART Lab, ~2017年 2月28日(火))
- 9月23日(金) コレクティヴ:EAS_Y Vol.02 ゲスト・レクチャー 西川勝人(山口情報芸術センター 多目的室)
- 9月24日(土) 9月例会(菜香亭) ゲスト:西川勝人夫妻
バンコクナイツ展 潜行一千里(山口情報芸術センター, ~11月6日(日))
- 10月8日(土) 秘められた色彩—ワークショップ Vol. II (菜香亭北客間)
講師:松尾宗慶 ※共催
- 10月9日(日) 秘められた色彩—ドローイング展 Vol. II ※共催
(菜香亭北客間, ~10日(月・祝)) アーティスト:松尾宗慶
- 10月22日(土) 10月例会(前町シマダ邸)
- 11月3日(木・祝) Soda Water 見えない風景(今八幡宮, ~6日(日)) Do a front 主催
- 11月9日(水) アート de おもてなし展への参加 ヴァレー・セクション:山口盆地考2016(菜香亭, ~13日(日))
- 11月11日(金) 第3回理事会/11月例会(前町シマダ邸, サラン)
- 11月23日(水・祝) 山口アート・アーカイヴ[YAA]+山口盆地考2016(~27日(日)) アーティスト・トーク/臨時総会
会場:菜香亭2F
- 11月26日(土) YAAキックオフ・イベント1—記録から記録資料へ
アーティスト:宮本博史(レジデンス・アーティスト)
パネラー:塩田望実(秋吉台国際芸術村),
渡邊朋也(山口情報芸術センター) 会場:菜香亭2F北客間
- 11月27日(日) YAAキックオフ・イベント2—座談会 YICA1998-2016
パネラー:YICAメンバー(奥津聖, 嶋田日出夫, 白川美幸, 中野良寿)+宮本博史
会場:菜香亭2F北客間



- 12月3日(土) アート・ウォーキング1—中原忠弦アトリエ(萩市, 田床山)
講師:中原忠弦
- 12月17日(土) 12月例会(前町シマダ邸)
- 1月15日(日) trans_2016-2017(秋吉台国際芸術村, ~3月10日(金))
滞在作家:ヘリ・ロ(韓国), イルス・リーンダース(オランダ)
小田香(日本), ロギョン・イ(韓国), ヨウ・ルー・チン(台湾)
カステヘルミ・コルピヤッコ(フィンランド)
- 1月20日(金) 山口盆地考2016 スライド・レクチャー&トーク・セッション
ヨーロッパの国際美術展
—マニフェスタ、ベルゲン、グランドツアー2017
講師:かないみき(ベルリン在住, 美術ジャーナリスト)
会場:山口情報芸術センター スタジオC
- 1月22日(日) コレクティヴ:EAS_Y Vol.02 成果展(~29日(日))
- 2月14日(火) 中村ガラス工房視察/カルチエラタン:
説明会のための打合せ/野田幼稚園:実施プロジェクト説明(最終確認)
- 2月18日(土) パニンギング・メッシュ(山口情報芸術センター, ~5月14日(日))
- 2月24日(金) 中原中也記念館企画展会場視察/2月例会(同前庭)
宮本博史さんとSkype会議(夢源)
- 3月4日(土) 国際シンポジウム報告会 21世紀のゲデイス探訪
-PAS 主催「Outlook:Exploring Geddes in the 21st Century 2016」より
報告者:奥津聖(山口大学名誉教授), 中野良寿(山口大学教授)
会場:山口情報芸術センター 多目的室
- 3月11日(土) アート・ウォーキング2—伝説!?…亀山と春日山は昔ひとつだった…?
(パークロード, 亀山, 春日山) 講師:原田正彦
N子ども園プロジェクト:現場での作品制作・設置作業(~31日(金))
- 3月26日(日) 第4回理事会/3月例会(前町シマダ邸)



2016年度は、筆者の友人で、アメリカのヒューストンを拠点として活躍するマリ・オーモリさんによるアーティスト・トークが来山アーティストによる最初の企画でした。マリさんは、東日本大震災の追悼プロジェクトに取り組んでおり、そのリサーチで来日中でしたが、秋吉台国際芸術村やYICAの活動など、幅広く見聞を深めるために山口にも訪問されました。

2014年度以来、2回目の「コレクティヴ:EAS_Y Vol.02」が実施され、講師として国内外からアーティストを呼ぶことができました。ドイツから来て頂いた西川勝人氏は、YICA設立メンバーである嶋田日出夫氏のデュッセルドルフ美術アカデミーにおける先輩で、現在は同地近郊のノイス市にある自然と芸術が融和・両立している美術館、インゼル・ホンブロイヒにスタジオを構え、同館の企画委員としても彫刻を手がけるアーティストとして活躍されています。滞在中は、県内の石材や自然資源を広く見て回られました。

YICAのアーカイヴ構築作業も本格的に始動し、その第1弾として、展覧会チラシや図録、記録写真やスライド、VHSやDVDなどが菜香亭で一般公開されました。前年度に木町ハウスに滞在してもらった宮本博史さんには、今回は前町シマダ邸に滞在してもらって、アーカイヴ展の展示構成をお願いしたほか、展覧会の準備として事前にVHSビデオの映像をデジタル変換して頂くなど、引き続き、アーカイヴ事業のアドバイザー的な面と実務面の両方で協力して頂きました。

そのほかにも、「リフレクションズ」で好評を得たアート・ウォーキングの第2弾や、ヨーロッパの国際展動向を紹介するレクチャー、エディンバラで開催されたパトリック・ゲデスの国際会議の報告会の開催など、盛りだくさんな1年でした。

(鈴木啓二郎)

山口盆地考2018.....吹き来る風が.....

主な行事

- | | | |
|------------|--|---|
| 4月 | N子ども園プロジェクト パート2
PJ-2: エンドレス・ペールボード, 担当: 中野良寿 |  |
| 4月12日(水) | 来訪: チャールズ・エッシュー家 (ジェーン・ワリロウさん, フェリックス君) | |
| 4月18日(火) | 来訪: トゥミ・マグヌソン (アイスランド出身, コペンハーゲン在住, アーティスト, ~19日(水)) / 歓迎会 (夢源) |  |
| 4月23日(日) | 例会 (前町シマダ邸) | |
| 4月28日(金) | 春日山庁舎 (旧山口県立図書館) 見学会 | |
| 5月13日(土) | ヴェネツィア・ビエンナーレ 第57回国際美術展「アート万歳」(~11月26日(日)) | |
| 5月18日(木) | 第1回理事会 / 例会 (前町シマダ邸) | |
| 5月19日(金) | 通常総会 (菜香亭) / ゲスト: 粉川妙 (山口市地域おこし協力隊員) |  |
| 5月20日(土) | 第1回やまぐち街なか大学 / 会場: 山口情報芸術センター 多目的室 | |
| 6月10日(土) | ドクメンタ14 (カッセル, ~9月17日(日))
ミュンスター彫刻プロジェクト2017 (ミュンスター, ~10月1日(日)) | |
| 6月16日(金) | 第2回やまぐち街なか大学 山口盆地考2017
逆さにすれば、森ーヴェネツィア・ビエンナーレ2017報告会
講師: 岩崎貴宏 / 会場: 山口情報芸術センター スタジオC |  |
| 6月25日(日) | 例会 (前町シマダ邸) | |
| 7月29日(土) | 例会 / バーベキュー (前町シマダ邸) | |
| 8月2日(水) | 来訪: サデウス・バーカー=ミル, マッコイ・バーカー=ミル兄弟 (~7日(月)) | |
| 8月19日(土) | 山口ふるさと伝承総合センター主催事業への協力
夏休みものづくり体験 シルクスクリーン・ワークショップ
講師: 藤木律子, 白川美幸, 中野良寿 会場: 山口ふるさと伝承総合センター | |
| 8月27日(日) | 例会 (前町シマダ邸) | |
| 9月2日(土) | 歌とピアノと現代美術の響演 (秋吉台国際芸術村 ホール
主催: yan山口アートネットワーク) ※澤登恭子 |  |
| 9月12日(火) | アーティスト・イン・レジデンス 1: 宮本博史 (大阪) (前町シマダ邸, ~19日(火)) | |
| 9月13日(水) | 第3回やまぐち街なか大学 山口アート・アーカイヴ [YAA] 成果展
—さらなる構築と活用へ (~18日(月・祝)) 会場: 菜香亭2F会議室 | |
| 9月14日(木) | アーティスト・イン・レジデンス 2: 寺田就子 (大阪) (前町シマダ邸, ~19日(火)) | |
| 9月18日(月・祝) | 第4回やまぐち街なか大学 アート・ワークショップ / 講師: 寺田就子
第5回やまぐち街なか大学 アーティスト・トーク / 宮本博史, 寺田就子
会場: 菜香亭2F会議室 | |
| 9月23日(土) | 第6回やまぐち街なか大学 / アーカイヴの日 / 例会 (前町シマダ邸) | |
| 9月28日(土) | Patrick Geddes Learning Festival
(PAS, エディンバラ, ~9月29日(日)) ※鈴木啓二朗参加 | |
| 10月13日(金) | 第7回やまぐち街なか大学 / アーカイヴの日 (前町シマダ邸) |  |

- | | | |
|-------------|--|---|
| 10月21日(土) | 来訪: マルティナ・クライン (デュッセルドルフ在住, アーティスト, ~23日(日))
秘められた色彩—ワークショップVol.III (菜香亭2F北客間) 講師: 松尾宗慶 ※共催 | |
| 10月22日(日) | マルティナ・クライン歓迎会 (圭介) |  |
| 10月28日(土) | 第2回理事会 / 例会 (前町シマダ邸)
秘められた色彩—ドローイング展Vol.III ※共催
(菜香亭2F北客間, ~30日(月)) アーティスト: 松尾宗慶 | |
| 10月31日(火) | 来訪: メイボン・尚子 (アバディーン在住, キュレーター, ~11月2日(木)) | |
| 11月1日(水) | メイボン・尚子歓迎会 (夢源) | |
| 11月3日(金・祝) | 第8回やまぐち街なか大学 / アーカイヴの日 (前町シマダ邸) |  |
| 11月8日(水) | アート de おもてなし展への参加
ヴァレー・セクション: 山口盆地考2016 (菜香亭, ~12日(日)) | |
| 11月23日(木・祝) | 第9回やまぐち街なか大学 / アーカイヴの日 /
プチ例会 (山口情報芸術センター 多目的室) |  |
| 11月26日(日) | 例会 / Do a frontとの打合せ (山口ふるさと伝承総合センター) | |
| 12月23日(土・祝) | 第10回やまぐち街なか大学 / アーカイヴの日 / 例会 (前町シマダ邸) | |
| 1月14日(日) | trans_2017-2018 (秋吉台国際芸術村, ~3月9日(金))
滞在作家: エヴァ・ウェソロフスカ (ポーランド)
ミナ・ナスル (エジプト), ヨシダケンジ (日本), スージン・イ (韓国)
スー・イーシン (台湾), カトリ・ナウツカリネン (フィンランド) |  |
| 1月24日(水) | 山口盆地考2018.....吹き来る風が..... (中原中也記念館, ~4月15日(日)) | |
| 1月26日(金) | 中也を読む会 ※企画展見学会
第11回やまぐち街なか大学 / アーカイヴの日 / 例会 (前町シマダ邸) |  |
| 2月10日(土) | 例会 (前町シマダ邸) | |
| 2月11日(日・祝) | 山口盆地考2018.....吹き来る風が..... モビール・ワークショップ
講師: 藤木律子 / 会場: 中原中也記念館 |  |
| 3月10日(土) | 山口盆地考2018.....吹き来る風が..... アーティスト・トーク | |
| 3月13日(火) | 第12回やまぐち街なか大学 / アーカイヴの日 (前町シマダ邸) | |
| 3月16日(金) | 第21回シドニー・ビエンナーレ (~6月11日(月)) | |
| 3月17日(土) | 第3回理事会 / 例会 (前町シマダ邸) | |

「山口盆地考2018.....吹き来る風が.....」は中原中也の「帰郷」の一節を副題に借りて、その一節に続く「あゝおまへはなにをして来たのだ」という問いかけに答える形で、参加作家それぞれが自らの表現を深め、また鑑賞者もそうした表現に触れて「吹き来る風」を感じてもらうことをねらった企画でした。中原中也記念館のスタッフの方々の行き届いたバックアップで実現したコレボレーション企画展であり、NHK日曜美術館のアートシーンで全国に紹介されるなど、YICA設立20周年に向けて、大変意義深い展示会になりました。また、嶋田啓子さんの発案で、前年度からスケジュール調整をして実現した岩崎貴宏さんのレクチャーも、多くの市民にご来場頂き、質疑応答や閉会後の意見交換も含めて、山口のアートシーンを活気づけるようなものになりました。アーカイヴに関する活動では、YICAが設立された1998年5月23日にちなんで、毎月3がつく日に「アーカイヴの日」を設定したことで、集まった会員の間で過去の写真を見ながら語り合うことが実現するなど、新しい段階に進みましました。こうしたアイデアは、パイロット事業から関わってもらっている宮本博史さんがAHA! [Archive for Human Activities]の活動として行っていたものです。アーティスト・イン・レジデンス事業では、宮本さんと、彼が現在取り組んでいる寺田家プロジェクトの協力者でもあるアーティストの寺田就子さんを山口にお招きし、アーカイヴの成果展に合わせて、ワークショップやアーティスト・トークを開催してもらいました。(藤川哲)

20周年記念冊子刊行

主な行事

- 4月13日(金) アーカイヴの日(前町シマダ邸)
- 4月21日(土) 例会(前町シマダ邸)
- 4月28日(土) 第1回やまぐち街なか大学 山口アート・アーカイヴ[YAA]の共有化に向けて
講師:藤川哲
会場:山口情報芸術センター 多目的室
- 5月3日(木・祝) アーカイヴの日(前町シマダ邸) ※終了後、オクトーバーフェストへ
- 5月12日(土) 陰翳礼讃(慧星倶楽部, 金沢市, ~6月3日(日)) ※福田篤夫, アラン・ジョンストン2人展
- 5月15日(火) 第1回理事会(前町シマダ邸)
- 5月16日(水) 来訪:アラン・ジョンストン, ローラ・バーディ, メイボン・尚子, イラナ・ハルペリン
/ 歓迎会(きせん)
- 5月19日(土) 総会/第2回理事会(菜香亭大広間)
第2回やまぐち街なか大学 YICA設立20周年記念講演会
講師:アラン・ジョンストン, 通訳:メイボン・尚子
- 6月15日(金) 第3回やまぐち街なか大学 シドニー・ビエンナーレ2018報告会
報告者:藤川哲
会場:山口情報芸術センター 多目的室
- 6月23日(土) アーカイヴの日/例会(前町シマダ邸)
- 6月24日(日) 草野貴世 裏返り続ける... (Operation Table, ~9月2日(日))
- 7月13日(金) アーカイヴの日/例会
第4回やまぐち街なか大学 ヨーロッパ・グランド・ツアー2017報告会
報告者:鈴木啓二郎
会場:山口情報芸術センター 多目的室
- 7月21日(土) メディアアートの輪廻転生(山口情報芸術センター, ~10月28日(日))
- 7月31日(火) YICA設立20周年記念冊子編集会議(前町シマダ邸)
- 8月23日(木) 例会(前町シマダ邸)
- 9月10日(月) YICA設立20周年記念冊子刊行
- 9月12日(水) 山口アート・アーカイヴ [YAA] 2018 アーカイヴと表現(~17日(月・祝))
会場:菜香亭2F客間
- 9月16日(日) YICA設立20周年記念シンポジウム
シンポジウム1 YICAの始まりー山口の現代アートシーン1980年代, 90年代
パネラー:嶋田日出夫, 荒瀬景敏, 山根秀信
シンポジウム2 YICAのこれからーグローバルな山口~2020年代に向けて
パネラー:牧田義也, 鈴木啓二郎, 森秀信
会場:菜香亭大広間



YICA設立20周年を記念して開催したアラン・ジョンストン氏の講演会は、彼の雪舟への関心と一貫した制作活動を振り返る貴重な機会となりました。秋の「山口アート・アーカイヴ [YAA] 2018 アーカイヴと表現」展にはジョンストン氏のドローイング作品も出品され、私たちYICAの活動と彼との長きにわたる交流の証となるでしょう。やまぐち街なか大学では、第3回でシドニー・ビエンナーレの調査報告を、第4回で鈴木啓二郎さんによるヨーロッパ滞在の経験を紹介し、秋以降には光州ビエンナーレと釜山ビエンナーレの調査報告、渡辺栄夫妻によるイタリア生活の紹介、上海ビエンナーレの調査報告が予定されています。2016年度から3か年度のプロジェクトとして継続してきた山口アート・アーカイヴ[YAA]も、この冊子刊行で1つの区切りをつけ、過去の遺産をしっかり見つめ直すことで得られた成果を、未来へ向かう推進力へと変換する段階に来ています。

2018年度は平成最後の年。20周年を迎えたYICAも、新元号の新年度からさらに新たな活動を展開します。

(藤川哲)



YICA事務局に保存されていた新聞記事等の切り抜きについて、I. 記事一覧、II. 記事本文、を掲載します(インターネット閲覧用ではこの部分を削除)。YICA設立前史がわかる貴重な資料です。記事一覧は、掲載紙・誌名、発行日、見出しの順に記載し、新聞等で見出しが複数ある場合は「/」で区切りました。記事本文は、写真が付されている記事も相当数ありましたが、読み易さを考慮して文章のみの再録としました。また、都合により全60件中、29件としました。

I. 記事一覧 (60件)

1994年 (平成6年)

1. サンデー山口	1994年9月14日	山大講師外山さんがグラスゴー国際会議について報告/「山口の文化・芸術活動の新たな展開」/17日、C.S.赤れんがで
2. 読売新聞	1994年9月15日	山口メセナ倶楽部/支援9団体決める/総額208万円を助成
3. 読売新聞	1994年9月15日	「現代芸術研究機関」設立を/17日に英・国際会議の報告会/山口のグループ活動第一弾
4. 朝日新聞	1994年9月16日	「街づくりに現代芸術を」/市民団体が研究機関設立へ/あす 山口市で報告会
5. 山口新聞	1994年9月16日	現代芸術 中核施設を/山口 設立へあす説明会
6. 中国新聞	1994年9月17日	山口に現代芸術の拠点を/研究活動機関結成を準備/山大教官や企業人/展覧会や公演/多彩な事業
7. 山口日日新聞	1994年9月17日	YICA設立に動く/きょう報告会兼ね初会合開く
8. 朝日新聞	1994年9月18日	〈まちかどミニニュース〉山口と世界を結ぶ
9. 読売新聞	1994年9月18日	山口を芸術文化都市に/ICA設立へ向け講演会
10. 毎日新聞	1994年9月18日	現代芸術 街づくりに生かそう/半官半民の研究機関/YICA設立めざす/山口市で準備報告会
11. 西日本新聞	1994年9月18日	「山口現代芸術研究機関」が設立準備報告会/多彩な活動計画披露/資料収集や自主出版など
12. サンデー山口	1994年9月23日	実現すれば日本初の試み/ICA(現代芸術研究機関)設立に向け始動/山口現代芸術研究会 クリエイティブタウンズクラブが準備委員会設立/来秋、エジンバラから6人招聘/1月には講演会開催
13. 読売新聞	1994年10月9日	〈日曜レポート〉現代芸術研究機関設立へ準備/山口の民間グループ/豊かな地域社会の構築へ/運営体制や資金面/越えるべき課題も
14. 読売新聞	1994年10月26日	環境・心・暮らしを軸に/若者と論議深めたい/芸術による活性化など提言/「よみうり・西部フォーラム」山口会議
15. 読売新聞	1994年11月5日	〈文化の担い手たち/山口メセナ支援団体紹介 ⑨〉クリエイティブ・タウンズ・クラブ/来年“エジンバラ展”を
16. 読売新聞	1994年12月23日	YICA設立へ/研究会が初会合
17. 山口新聞	1994年12月23日	現代芸術活動を展開/「YIK[ママ]A」設立へ/実現化研究会発足
18. 西日本新聞	1994年12月25日	〈ファイル山口'94 ②〉新施設が地域の“核”に/芸術活動…新たな息吹
19. サンデー山口	1994年12月28日	半官半民・現代芸術研究機関の設立目指し/YICA実現化研究会発足

1995年 (平成7年)

20. サンデー山口	1995年1月1日	秋にイベント「エジンバラ～山口」/クリエイティブ・タウンズ・クラブ
21. 朝日新聞	1995年1月12日	「現代美術でまちづくり」/YICA設立へ
22. サンデー山口	1995年2月18日	芸術と街づくりの関わりについて/21日 エジンバラ大学ダンカン教授が講演
23. 読売新聞	1995年3月6日	〈人・ことば〉YICA実現化研究会事務局の中心的メンバー嶋田 日出夫さん41/現代芸術発信する地域に
24. 朝日新聞	1995年4月6日	山口市を芸術の都に/官民で支援組織設立へ
25. サンデー山口	1995年4月22日	現代芸術研究機関の設立めざし/きょう講演会「A NEW MUSEUM」
26. 公明新聞	1995年5月29日	〈草の根インタビュー〉豊かな芸術文化都市めざして/山口現代芸術研究機関設立への動き/奥津聖・山口大学教授に聞く/外国人作家とのネットワーク生かし美術、映画、音楽など幅広く紹介/活動の蓄積が文化環境を育む
27. 読売新聞	1995年6月21日	県の公共事業上半期契約目標75%に引き上げ
28. 読売新聞	1995年9月22日	英のアーティスト招き市民と交流、交換会/山口市で29日から
29. サンデー山口	1995年9月27日	29日から10月1日まで/「エジンバラ～山口'95」開催/主催はYICA設立準備会

30. サンデー山口	1995年9月27日	「デザインミーティング'95・オープニングファッションショー」/29日午後6時から、県政資料館で
31. 毎日新聞	1995年9月27日	デザインミーティング開催
32. 読売新聞	1995年9月29日	英国エディンバラ大の4教授/佐内・山口市長を訪問
33. 中国新聞	1995年9月29日	〈ちゅうごく広域(山口)〉参加の英大学教授4人が市役所訪問/山口「山大と交流深めたい」
34. 朝日新聞	1995年9月29日	山口市長を表敬訪問
35. 毎日新聞	1995年10月2日	楽しい街づくりを考えよう/一の坂川ワークショップ/小雨の中100人が参加
36. 市報やまぐち	1995年10月15日	デザインミーティング'95/オープニングファッションショー
37. 読売新聞	1995年11月26日	〈地域から文化発信/山口会議を前に④〉「エディンバラ～山口」開催/英国教授と交流深める
38. 読売新聞	1995年12月2日	「文化で地域おこし」討議熱く/「よみうり・西部フォーラム」山口会議/行政と住民一体で創造
39. 読売新聞	1995年12月2日	今後のイベント作りの参考に/市民ら真剣に傍聴
40. 読売新聞	1995年12月2日	〈基調報告要旨〉「地域創造」芸術環境部長 小暮宣雄氏/アーツの息づく地域に/5項目の提言大きな収穫
41. 読売新聞	1995年12月8日	基調報告 財団法人「地域創造」芸術環境部長 小暮宣雄氏/継承するだけでは発信はできない/「よみうり・西部フォーラム」山口会議の詳報/芸術の土台は街にある/感性を育てることが大切

1996年 (平成8年)

42. Global Yamaguchi News	1996年1月 (No.23)	(財)山口県国際交流協会:〈国際交流活動レポート〉「エジンバラ～山口'95」/一芸術のまち山口とその環境-YICA設立準備会
43. サンデー山口	1996年1月10日	中間報告書作成/YICA設立準備会
44. 朝日新聞	1996年2月21日	山口現代芸術機関の設立準備会/参加者増やし充実を図る/会費制も検討/「わかりやすい催しを」
45. 防長新聞	1996年5月16日	芸術のまち山口を考える/18日、YICA1996
46. [掲載紙不詳]	日付不詳※5月18日頃	芸術のまち山口を考える/山口市でYICA設立準備会
47. 西日本新聞	1996年6月16日	〈やまぐち 人 話題〉芸術の街・山口目指し/嶋田 日出夫さん

1997年 (平成9年)

48. 山口経済レポート (旬刊)	1997年12月18日 (第1002号)	「YICA」現代芸術の研究機関/坂口友子ワークショップ開催
-------------------	----------------------	-------------------------------

1998年 (平成10年)

49. サンデー山口	1998年3月19日	21日からデビッド・ハモンズ氏がモービルガーデンプロジェクト/アーティスト インレジデンス山口
50. 山口新聞	1998年3月23日	山口滞在のハモンズさん/県立美術館で講演/秋吉台国際芸術村プレ事業/夢と幻想 表現/モービル・ガーデンも披露
51.山口経済レポート (旬刊)	1998年4月18日 (第1013号)	「YICA」現代芸術の研究機関/デビッド・ハモンズ、辻耕氏、個展開催
52. 朝日新聞	1998年4月30日	〈[学芸]ニュース スナップ〉文化二都物語/現代芸術との出会い創出して
53. 山口新聞	1998年5月18日	「山口現代芸術研」23日に設立/芸術家2人の講演会も
54. 朝日新聞	1998年5月25日	〈ティータイム〉奥津聖 山口現代芸術研究所(YICA)会長/イッカ/未来担う子供たち対象
55. 朝日新聞	1998年6月1日	〈ティータイム〉奥津聖 山口現代芸術研究所(YICA)会長/現代芸術との出会い/若手の気迫に見方一転
56. ふれあい山口 (県広報誌)	1998年7月	特集1 この夏、世界中から芸術家がやってきます/秋吉台国際芸術村 いよいよ8月25日オープン!
57. 市報やまぐち	1998年7月1日 (No.1223)	〈山口 印象派〉デビッド・ハモンズ(David Hammons)さん
58. 朝日新聞	1998年7月17日	〈ティータイム〉奥津聖 山口現代芸術研究所(YICA)会長/異能の人/「生きる」とは「芸術」だ
59. 朝日新聞	1998年8月3日	〈ティータイム〉奥津聖 山口現代芸術研究所(YICA)会長/「無縁の縁」/新たな出あいを求めて
60. 朝日新聞	1998年9月27日	思い切り自分を表現しよう/子ども対象に創作の集い/芸術愛好グループ「自由に」と参加募る/来月10、11日に山口市で



YICA 20th Anniversary 1998-2018

企画：特定非営利活動法人 山口現代芸術研究所 (YICA)

編集長：藤川哲

副編集長：中野良寿

編集委員：上野恵子

鈴木啓二郎

校正：嶋田日出夫

フォトクレジット：宮本博史 (p. 62-63)

翻訳：鈴木啓二郎

デザイン：鈴木啓二郎

印刷製本：グラフィック

協力：奥津聖

アラン・ジョンストン / Alan Johnston

マード・マクドナルド / Murdo Macdonald

読売新聞社 知的財産担当

朝日新聞社 デジタル・イノベーション本部 法人

営業部 知財事業チーム

サンデー山口 総務課

公明新聞 読者企画部

毎日新聞 知的財産ビジネス室

西日本新聞 データベース資料部

山口経済レポート

山口新聞社 編集局

山口市役所 広報広聴課 (市報やまぐち)

助成：公益財団法人 山口市文化振興財団

後援：山口市

山口大学人文学部 藤川哲研究室

山口大学教育学部 中野良寿研究室

N3 ART Lab

the temporary space

Do a Front

発行：特定非営利活動法人 山口現代芸術研究所 (YICA)

〒753-0057 山口県山口市前町2-11 (事務局)

e-mail : yica.since1998@gmail.com

Facebook : <https://www.facebook.com/yical998/>

Homepage :

発行日：2018年9月10日 (月)

発行部数：250部

第二版：2019年3月14日 (木)

インターネット閲覧用

©2018-19 特定非営利活動法人 山口現代芸術研究所 (YICA)

無断掲載・転載禁止



